



# 東京文化資源会議年報 2022 年度

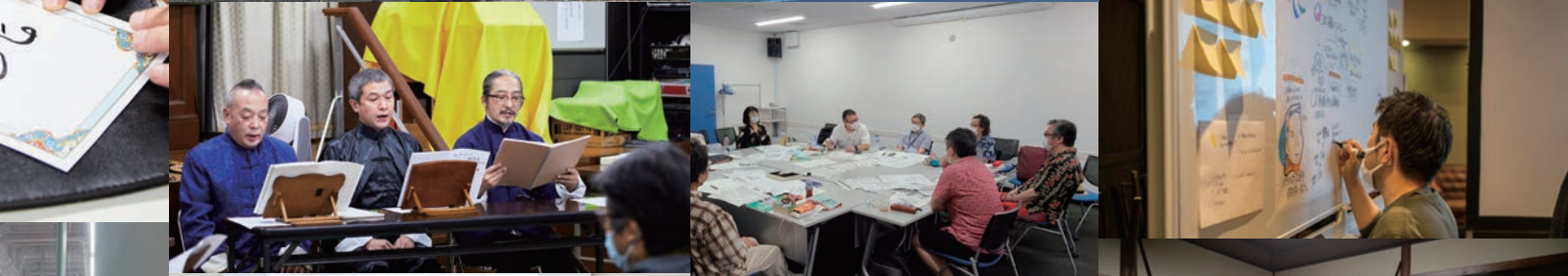
東京文化資源  
会議

Tokyo Cultural Heritage Alliance



奥性





### 秋葉原歴史論争 ～The 延長戦～

2021年4月5日にYouTubeライブにて放送された『秋葉原歴史論争』(広域秋葉原史論争 in しほびず中継ver)。50分の放送時間内では秋葉原の歴史を語り尽くすことが出来なかったメンバーから延長戦開催の要望があった。新しい一、秋葉原を見守り続ける神田明神にて新たなゲストを加えての延長戦が行われます。

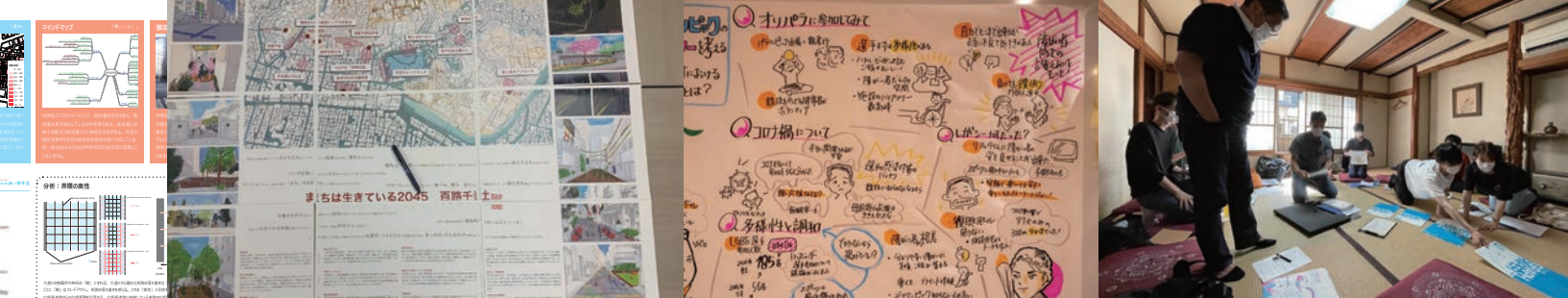
日時: 令和3年8月21日(土) 15:00-17:30  
 会場: 神田明神 聖務所地下集会所  
 定員: 60名(オンライン放送も予定)  
 ※下記URLまたはQRコードよりお申し込み下さい。  
<https://form.kandyasodin.jp/akihabara/>  
 料金: 無料  
 主催: 神田明神 広域秋葉原作戦会議

■プログラム(一部変更になることがあります)  
 15:00 来賓挨拶 樋口高樹(千代田区長)  
 15:10 趣意説明「AKIBAと神田明神-異なる文化としての秋葉原」 岸川龍樹(神田明神)  
 15:20 基調講演「まちづくりのタネの探し方 まちの歴史ということ、思い出しということ」 真鍋隆太郎(東京大学)  
 15:40 ラウンドテーブル「秋葉原のまじり方(未)」  
 栗生はるか(文芸春秋編集者)  
 森田雄(まち歴史)  
 山野井健吾(株式会社ムラヤマ)  
 耳敷隆太郎(東京大学)  
 加藤晋平(神田明神)  
 豊地 尚輝(国際大学)  
 17:25 まとめに代えて 菊池 俊輝(国際大学)  
 17:30 終了

# 東京文化遺産 会議源会

Tokyo Cultural Heritage Alliance

2022





## ▶ 目次

① 東京文化資源区構想 (半径3キロ圏地図 第4版) .....	6
② 活動マップ (第6版) .....	7
③ 活動中のプロジェクトチーム等一覧 .....	8
④ 活動実績 (2014年6月～) .....	9
⑤ 2020年度プロジェクトチーム活動報告 .....	12
⑤ -1. 地図ファブ .....	12
⑤ -2. 湯島神田上野社寺会堂研究会と崖東夜話 .....	13
⑤ -3. 本郷のキオクの未来 .....	15
⑤ -4. スポーツ文化資源 .....	16
⑤ -5. 上野スクエア構想 .....	17
⑤ -6. リノベーションまちづくり制度研究会 .....	18
⑤ -7. TokyoTramTown 構想 .....	19
⑤ -8. 広域秋葉原作戦会議 .....	20
⑤ -9. 上野ナイトパークコンソーシアム .....	22
⑤ -10. やねせんあたり研究所 .....	23
⑤ -11. 神田まちづくり懇談会 .....	24
⑤ -12. 上野連携構想推進委員会 .....	25
⑤ -13. ひじりばし博覧会 2021 (中止) .....	26
⑤ -14. 旨味都市シンポジウム .....	29
⑥ 2022年度事業計画案及び収支計画案 .....	30
⑦ 東京文化資源区文化プログラム推進協議会規約 .....	32
⑧ 東京文化資源会議 役員名簿 .....	33
⑨ 東京文化資源会議 賛助会員一覧 .....	34

# 東京文化資源区構想 (ver.4)

2022年3月

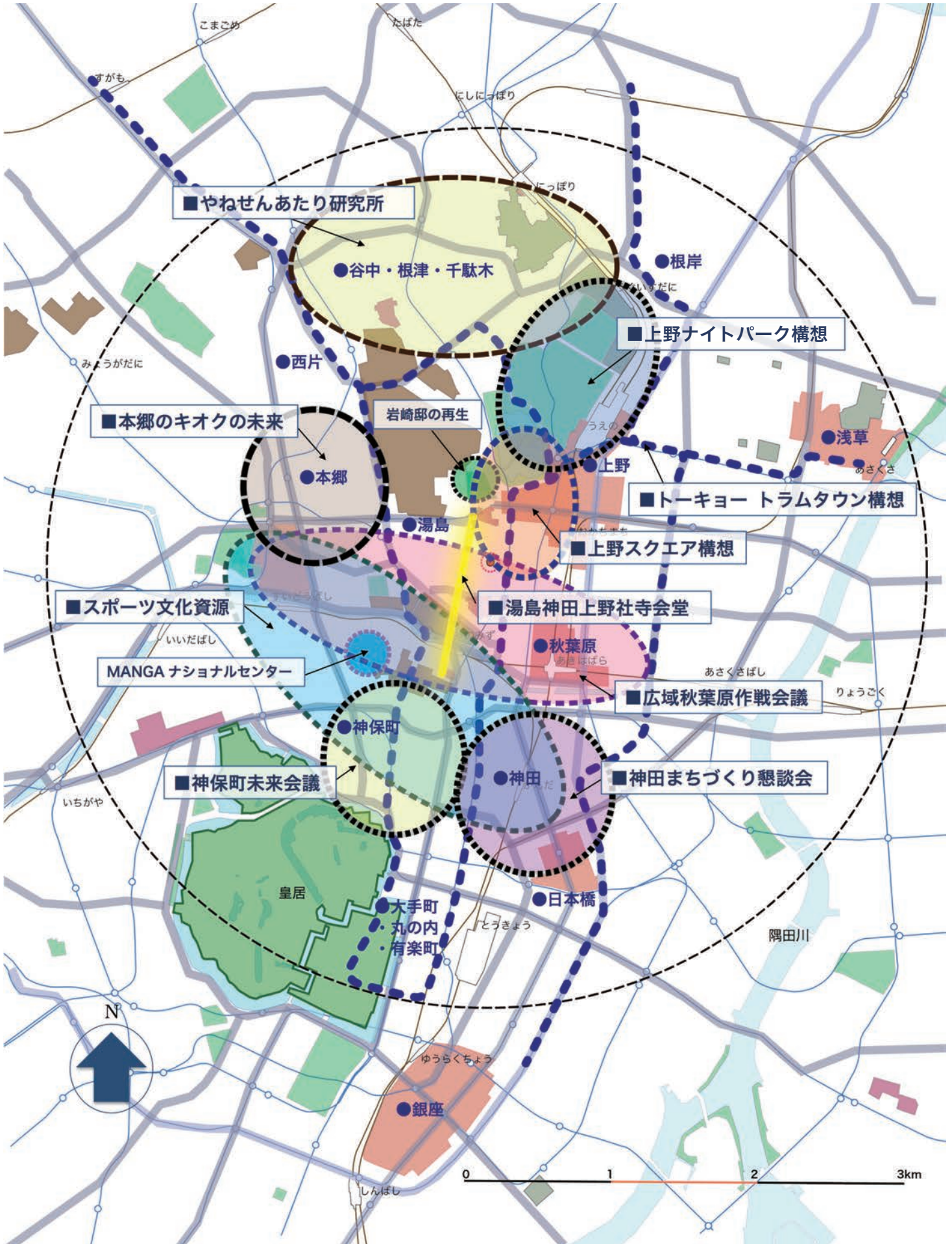


凡例

大学等教育施設	墓地・墓苑	会館・宗教施設	居住等新整備エリア	バス等回遊動線	半径3.0km圏
公園・皇居等緑地	谷中寺社集積地	博物館・美術館等	幹線道路	低速の回遊動線	半径3.0kmの中心
上野動物園	神社	市街地整備地区等	地区内道路		

# 東京文化資源会議 活動マップ (ver.6)

2022年3月



## 活動中のプロジェクトチーム等一覧

2022年3月31日現在

\*PM：プロジェクトマネージャーの略称

### <プロジェクトチーム>

1. 3区文化資源地図ファブ（真鍋陸太郎座長、鈴木親彦 PM）
2. 湯島神田上野社寺会堂研究会（吉見俊哉座長、金井康子 PM）
3. 本郷のキオクの未来（栗生はるか座長、三文字昌也・細見直史 PM）
4. スポーツ文化資源（新雅史座長、逢坂裕紀子 PM）
5. 上野スクエア構想（中島直人座長、小野道生 PM）
6. リノベーションまちづくり制度研究会（田村誠邦座長、小泉秀樹副座長、小野道生 PM）
7. トーキョートラムタウン構想（中島伸座長、谷口晋平 PM）
8. 広域秋葉原作戦会議（庄司昌彦座長、菊地映輝・井上奈智 PM）

### <委員会等>

- 上野ナイトパーク構想会議（青柳正規座長）・上野ナイトパークコンソーシアム
- 神田まちづくり懇談会（小林正美座長）
- 広報委員会（柳与志夫委員長）
- 出版委員会（沢部均委員長）
- 東京トラムタウン構想委員会（中村文彦委員長）
- やねせんあたり研究所（片桐由希子主宰）
- 文化資源プロデュース塾（塾頭はプログラム毎の交代制）
- 上野連携構想推進委員会（吉見俊哉委員長）

### <個別の取組>

- 旧岩崎邸整備
- MANGA ナショナルセンター設置
- 江戸城天守再建

### <千代田・文京・台東3区との協議会>

- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会
- 三区文化資源地図協議会

### <関連協力団体>

- 非営利芸術活動団体コマンド N
- 神保町未来会議



## 東京文化資源会議 活動実績（2014年6月～）

2022年3月31日現在

### 2014年

- ・ 第1回東京文化資源区構想策定調査委員会（6月6日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.1「東京文化資源区構想」（10月22日）

### 2015年

- ・ 東京文化資源会議設立総会（2月23日）、会議発足（4月1日）
- ・ 『東京文化資源区構想報告書』発行（5月）
- ・ 公開シンポジウム no.1「Tokyo 2020/2030：文化資源で東京が変わる」（5月21日）
- ・ 第1回役員会・賛助会員懇親会（6月18日）
- ・ 2015年度第1回総会（6月29日）
- ・ 都市計画家協会ワークショップ「東京文化資源からのコミュニティ・デザイン」（8月20・21日）：協力イベント
- ・ 団体会員向けプログラム説明・意見交換会（9月28日）
- ・ 全国まちづくり会議学生セッション（東京文化資源区）（10月4日）：関連企画
- ・ 会員向けエクスカージョン「CTNを周ってみる」（10月17日・24日）
- ・ 谷中まちづくり公開セミナー no.1（11月9日）～no.5（2016年2月14日）
- ・ 第1回東京ビエンナーレ企画委員会（11月25日）
- ・ 第1回文化資源連携ビジョン策定委員会（12月3日）
- ・ 「オズマガジン Meets 2015」：協力企画（中村政人氏対談）（12月13日）

### 2016年

- ・ 「三区文化資源地図協議会」発足（1月1日）
- ・ 文化資源地図ファブPT第1回会合（1月21日）
- ・ 公開シンポジウム no.2「2030 東京ビジョン：3区長、大いに語る」（2月4日）：朝日新聞社共催
- ・ 国際連携チーム（ILT）発足（3月9日）
- ・ まちの作戦会議@谷中P 成果発表会（3月13日）
- ・ 公開ラウンドテーブル no.2「オリンピック文化プログラム構想戦略ラウンドテーブル」（3月24日）
- ・ 『オリンピック文化プログラム』『東京文化資源区の歩き方』同時発行（3月25日）
- ・ フォーラム no.1「プロジェクトスクール（まちづくり系）フォーラム」（4月22日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）プロジェクトチーム発足（5月25日）
- ・ 東京文化資源区文化プログラム推進協議会発足（6月1日）
- ・ 湯島神田社寺会堂プロジェクト第1回検討会（6月8日）
- ・ 『第2回公開シンポジウム報告書』発行（6月14日）
- ・ 2016年度第1回総会（6月23日）
- ・ 第1回神田まちづくり懇談会（6月27日）
- ・ 第1回文化プログラム推進協議会（7月6日）
- ・ フォーラム no.2「上野スクエア計画第1回フォーラム」（8月23日）
- ・ トーキョートラムタウン構想第1回勉強会（10月6日）
- ・ 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）試作版公開（10月7日）
- ・ 関連企画：トークセッション「UP TOKYO エリアの社寺会堂」（10月19日）
- ・ フォーラム no.3「上野スクエア計画第2回フォーラム」（10月21日）
- ・ 公開シンポジウム no.3「上野スクエア構想：上野・湯島の魅力を世界に！」（12月5日）
- ・ スポーツ文化資源プロジェクト企画拡大会議（12月12日）

### 2017年

- ・ 『湯島・神田・秋葉原めぐり』3か国版で発行（4月1日）
- ・ 公開シンポジウム no.4「UP TOKYO の魅力：世界へ、世界から」（4月11日）
- ・ 神田祭ラボお披露目会 4/22、神田祭ライブ 5/13（3区文化資源地図ファブPT）
- ・ ナショナルハウス構想プロジェクトチーム発足（5月30日）
- ・ 第1回上野スクエア構想検討委員会開催（5月31日）
- ・ 第1回広報委員会（5月31日）
- ・ 2017年度第1回総会（6月30日）

- ・「上野ナイトパーク構想」官房長官宛て提案（7月4日）
- ・特別賛助会員懇親会（7月7日）
- ・第1回リノベまちづくり制度研究会開催（8月2日）
- ・公開ラウンドテーブル no.3「トーキョートラムタウン（TTT）構想」（9月7日）
- ・フォーラム no.4「日本の新しい精神文化創造に向けて ― 湯島神田社教会堂検討会」（10月17日）
- ・公開シンポジウム no.5「東京・水の記憶と湯島社教会堂プロジェクト」（11月14日）
- ・公開シンポジウム no.6「地域の記憶と記録を今に活かす ― 地域文化資源デジタルアーカイブの役割 ―」（11月24日）

## 2018年

- ・朝日信用金庫・民間都市開発機構による「谷根千街づくりファンド」創設（3月26日）
- ・帝都物語第1回トークセッション（地図ファブPT）（6月11日）
- ・2018年度第1回総会（7月2日）
- ・第1回社教会堂塾開催（7月4日）
- ・2018年度第1回全国文化資源連携ビジョン策定委員会開催（7月10日）
- ・公開シンポジウム no.7「グレーターアキバ：情報・知識の交差点」（9月6日）
- ・関連企画：東京ピエンナーレ構想展トーク企画「東京文化資源区の観点から『東京ピエンナーレ』を考える」（9月29日）
- ・公開シンポジウム no.8「発見！『上野スクエア構想』開かれた文化資源」（10月1日）
- ・第1回上野ナイトパーク構想会議開催（10月3日）
- ・帝都物語第2回トークセッション（地図ファブPT）（10月18日）
- ・フォーラム no.5「開かれた文化資源区『上野スクエア』を实践する」（10月31日）
- ・東京文化資源会議交流会@旧山口萬吉邸（11月7日）
- ・公開シンポジウム no.9「神田明神ホール完成披露 地図からみる帝都物語と江戸・東京@神田明神 ― 重層化する都市の文化資源を愉ませる ―」（12月14日）
- ・広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.1「ライブエンターテイメント特区を考える」（12月15日）

## 2019年

- ・フォーラム no.6「まちづくりプロジェクトスクールの可能性 ― 『文化資源を担う人』を育てるまちなかのしくみ ―」（1月19日）
- ・公開ラウンドテーブル no.4「トーキョートラムタウン構想 ― スローモビリティが変える東京の都市生活」（2月18日）
- ・広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.2「アキバ拡張作戦」（2月26日）
- ・第1回上野ナイトパーク構想企画検討会開催（3月7日）
- ・公開シンポジウム no.10「上野ナイトパークが日本を変える」（4月3日）
- ・第1回「池の端仲町かいわい 空きスペース活用ミーティング」（4月19日）
- ・広報イベント「ソラシティでスポーツを遊ぼう！」開催（5月5日）
- ・第1回総合戦略チーム会議（5月9日）
- ・新事務所開き（6月12日）
- ・トークショー「街を更新する小さなパブリックスペース ～神社やお寺や聖堂が身近にある暮らしを考える」（社教会堂研究会）（6月21日）
- ・広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.3「千代田区都市計画マスタープランをハックする」（6月28日）
- ・2019年度第1回総会・上野関連プロジェクト報告会（7月11日）
- ・アーツ&スナック運動（9月20日、21日）
- ・公開シンポジウム no.11「時層する東京と社教会堂」（11月6日）
- ・第1回東京トラムタウン構想委員会開催（12月2日）
- ・広域秋葉原作戦会議アイディアソン vol.4「スローモビリティで楽しいアキバ」（TTT 構想 PT との共催）（12月7日）

## 2020年

- ・デジタルアーカイブ・ワークショップ（日比谷図書文化館）（2月1日）
- ・やねせんあたり研究所第1回研究・活動発表会（2月24日）
- ・緊急特番「# Save your AKIBA」（5月20日）
- ・オンライン発表&討論会「大学生と考える上野の都市デザイン2題」（6月11日）
- ・ひじりばし博覧会2020（ソラシティ）（7月24日）
- ・広域秋葉原放送局第1回放送（8月7日）
- ・ガイドウスタンド開設（10月14日～11月28日）
- ・第1回崖東夜話（神田明神ほか6施設）（10月27日）
- ・第1回上野連携構想推進委員会開催（12月7日）

## 2021年

- ・ 上野ナイトミュージアムツアー（2月12日・19日）、ポッドキャストコンテンツ「10代ミュージアムによるラジオ」制作・配信（2月22日～）：文化庁による博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業の委託事業として実施
- ・ 崖覧会その壺（3月24日）
- ・ 「しのばずで遊ぼう！池と町」ウォーク&プレイ上映会（3月28日）
- ・ 2021年度第1回総会オンライン開催（5月27日）
- ・ 東京都庁による大学研究者事業提案制度に応募（TTT 構想PT）（6月18日）
- ・ 広域秋葉原放送局 in しノばず中継第1回放送（4月5日）～第6回（6月21日）
- ・ 総会資料を2021年度発行分から遡って『東京文化資源会議年報』と改題（5月5日）、既刊とまとめて納本
- ・ 崖東夜話第二夜（10月22日）
- ・ セミナー&ワークショップ「パラリンピックのレガシーを考える：ポストコロナにおけるスポーツとは？」（スポーツ文化資源PT）（11月20日）
- ・ 公開シンポジウム no.12 「ポスト五輪・ポストコロナの東京ビジョンー 旨味都市の文化創生」（11月26日）
- ・ インターネットによる上野公園利用調査（上野ナイトパークコンソーシアム）（11月30日～12月3日）

## 2022年

- ・ 第1回UNPCフォーラム（2022年3月17日）

## <出版物>

### 書籍等

- ・ 『オリンピック文化プログラム』 勉誠出版、2016年
- ・ 『東京文化資源区の歩き方』 勉誠出版、2016年
- ・ 同人誌『広域秋葉原作戦 2019β』 2019年
- ・ 『帝都物語地図カタログ』 2019年
- ・ 『社教会堂から探る 江戸東京の精神文化』 2020年

### 報告書

- ・ 『東京文化資源区構想』 2015年
- ・ 『2030東京ビジョン 3区長、大いに語る』 2016年
- ・ 『湯島社教会堂プロジェクト報告書』 2017年
- ・ 『上野スクエア第二次構想報告書』 2018年
- ・ 『上野ナイトパーク構想報告』 2019年
- ・ 『リノベーションまちづくり制度研究会 2018年度報告書：東京歴史文化地区の創出にむけて』 2019年
- ・ 『TOKYO TRAM TOWN 構想計画』 2020年
- ・ 『旨味都市の文化創生 — 2030列島ビジョン』 2020年
- ・ 『文化資源からみた秋葉原エリアの地域活性化のための調査研究および提言に関する業務報告書』 2021年

### パンフレット

- ・ 「東京文化資源会議：2030Tokyoを変える！」 2016年～（随時改訂）
- ・ 「上野スクエア構想シンポジウム」 2016年
- ・ 「湯島・神田・秋葉原めぐり（日英中3か国版）」 2017年
- ・ 「シンポジウム：地域の記憶と記録を今に活かす」 2017年
- ・ 「江戸・東京 知の交差点 グレーターアキバ（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「江戸・東京 水を愉しむ文化都市（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「近代スポーツ発祥の地をたどる（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウンタウン（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 「上野アップタウン 観る・学ぶ・想う・街 お寺からアートへ（日英中3か国版）」 2018年
- ・ 『アーツ&スナック運動』 第1号、2020年
- ・ 「TOKYO TRAM TOWN 10のQ&A」 2020年

### 定期刊行物

- ・ 『TCha：東京文化資源会議ニューズレター』（季刊、2017年9月～）
- ・ 『東京文化資源会議総会資料（年報）』（年刊、2016年～）

今年度は新型コロナウイルスによって、地図を利用した街歩き等が実施できない状況が続いた。そこで、今期の地図ファブではリアルでの活動ではなく、未来の地図を作ることを軸として活動を行った。具体的には、社教会堂研究会の宇野求先生とのコラボレーションで、文化資源区の20年後の未来を新たな地図と未来の予想図（イラスト）を描いてきた。

## 地図ファブが未来の地図を描く まちは生きている 2045 百路千辻

### 1. 東京文化資源区を歩き直す

文化資源区の未来を考えるためには、現在の文化資源区を隅々まで歩かなくてはならない。そこで2021年5月までの期間は、地図ファブメンバーに宇野先生を加えた小規模なグループで文化資源区を歩き直した。まずは根津駅をスタートとして御茶ノ水まで南下し再び秋葉原まで北上するコース、つまり文化資源区の南半分を歩いた。続いて秋葉原から上野へ北上し谷根千へ回るといふ、北半分を歩くコースを巡った。



文化資源区歩き直しの様子：参加したPTメンバーの服装から、春先から初夏への季節の変化も分かる

### 2. 「路と辻」を軸に12か所をピックアップする

文化資源区を歩き直す中で、参加者は自由に写真を撮影し、未

来を考える上でポイントとなる場所をそれぞれに探して回った。人々の注目を浴びプロジェクトが動いている場所のみならず、一見地味で目立たないが大きな可能性を持つ場所などを語らう中で、チームの中では「路」とそれが交わる「辻」を通奏低音として未来を考えるという共通認識が生まれた。その中で、次の12か所をピックアップすることと決まった。

- ・根津の辻（根津駅周辺）
- ・井戸之端（根津の路地にある井戸に代表される小さな交流の場）
- ・表と裏のアプローチ（寛永寺と谷中墓地を繋ぐ路）
- ・緑と水のベルト（本郷台地から不忍池へ至る緑地帯）
- ・不忍ウォークウェイ（上野公園南側の街路）
- ・湯島天満宮参道（天満宮から南へ延びる参道）
- ・結界を魅せる（本郷台地端のアップダウン）
- ・聖別された新旧インフラ立体交差（湯島聖堂と聖橋周辺）
- ・淡路平坂（淡路坂）
- ・文化コンデンサ（秋葉原の路地）
- ・つながる「学問の道」（御徒町から湯島天満宮）
- ・徒歩のための細街路（御徒町の細街路）

### 3. 未来の姿を描き、未来の地図を描く

ピックアップした12か所について、未来の姿を考えていった。その中でポイントとなった考え方が、全ての「路」「辻」が自動車移動のために考えられている現状を変え、場所によっては人々が交流しよりよく暮らすための場所にしてみようかというもののである。この考え方は文化資源区に関わる生活者や様々なプレーヤーと議論をするための出発点となる。賛否両論含めて多くの人びとと議論を誘発するために、綿密に書かれた報告書ではなく、12か所の未来の姿を描いたイラストと地図が必要となる。2021年度を締めくくる活動として、A0サイズの未来のイラスト・地図を作成した。

作成した地図は、2022年5月に開催される「ひじりばし博覧会」にてお披露目し、未来の文化資源区を考える議論を行う予定となっている。



編集作業中の「まちは生きている2045 百路千辻」

## 活動概要

湯島神田上野社寺会堂研究会は昨年初めに第4期の活動をスタートし、2ヶ月毎にオンラインの研究会を開催してメンバー相互の交流を図りながら、六つの学術・宗教施設\*（六施設）の近況や課題を共有し意見交換を重ねてきました。「崖東夜話（がいとうやわ）」は、そうした話し合いの中から、施設間の連携による精神文化・宗教を育む取り組みとして考え出された企画です。コロナ禍が長引く中で、感染状況を見ながら開催の方法や規模を決める等、手探りの準備となりましたが、このような時こそ多様な交流の機会をつくりたいとの思いから予定通り開催することにしました。公開社寺会堂塾の連続セッションも開催に向けての検討をおこなっています。また、地図ファブPTの活動とも連携し、「湯島・神田・上野」にある学術・宗教施設の豊かな環境を周辺の道路や公園等とあわせて大きな公共的空間として捉え直す取り組みを、地図ファブ社寺会堂ジョイント企画として昨年度末より進めています。（詳細は地図ファブの頁を参照ください）。

\*寛永寺、アッサラームファンデーション、湯島天満宮、神田明神、湯島聖堂、ニコライ堂

## 崖東夜話の開催

昨秋に続き2回目となる「崖東夜話 第二夜」を10月22日（金）に開催しました（<https://gaitoyawa.jp>）。前半の「ポストコロナ社会の『やすらぎ』とは何か - 新しい精神文化の役割」をテーマにしたラウンドテーブルと、後半の六施設を会場に異なる教理や音楽の考え方に触れる「音の体験」をテーマにしたイベントの2部構成で開催しました。ラウンドテーブルでは、コロナ禍がもたらした日常生活の変化や不安に対して、精神文化・宗教がどのような役割を果たすことができるのか、「やすらぎ」や「生死」といった大きな視点を掘り下げた議論が交わされました。当日の様子はYouTubeで公開しています（<https://youtu.be/AyxXbP6B25M>）。後半は、六施設を同時につなぎ、「音」を介して精神文化・宗教の存在に緩やかに触れる体験型のイベントを行いました。コロナ禍によって私たちの会話を取り巻く環境が様変わりしたことで、日常的な「音」の世界は以前とは別のもものとなっています。声明や雅楽、鐘の音に象徴される精神文化・宗教の活動を形づくる様々な「音」が、精神や身体にもたらす変化を感じることで、日常生活を潜在的に支えている精神性や宗教性を見つめなおす機会とすることを意図した取り組みです。

東京文化資源会議ニューズレター（T-Cha）No.17「崖東夜話」特集（[https://tcha.jp/wp-content/uploads/T-Cha\\_17\\_web.pdf](https://tcha.jp/wp-content/uploads/T-Cha_17_web.pdf)）

## 【崖東夜話 第二夜】

### ・第一部

テーマ：「ポストコロナ社会の『やすらぎ』とは何か - 新しい精神文化の役割」

■日時：10月22日（金）午後1時半～3時半

■会場：神田明神文化交流館

■討論者：大川玲子（明治学院大学 / イスラーム学）・押見匡純（湯島天満宮 / 神道）・土居浩（ものづくり大学 / 民俗学）・中島隆博（東京大学 / 哲学）・中西裕一（ニコライ堂 / 東方正教）・西村明（東京大学 / 宗教学）・吉見俊哉（東京大学 / 社会学）

### ・第二部

共通テーマ：「やすらぎをもとめて - 音のひびき 2」

■日時：10月22日（金）午後5時～7時

■会場と各テーマ：

寛永寺『声明のお話』

アッサラームファンデーション『死後の世界とクルアーンの読誦』

湯島天満宮『言霊体験 - 本殿で祝詞（大祓詞）奏上 -』

神田明神『雅楽のお話と演奏』

湯島聖堂『江戸期伝来の中国文人音楽三種 - 魏氏明楽・心越派琴曲・清楽 -』

ニコライ堂『正教と聖歌のお話』

## 公開社寺会堂塾

当研究会では、六施設の関係者が集まっておこなってきた議論の中で、今、「湯島・神田・上野」に集積された「学び」に注目しています。宗教施設は信仰の場であると同時に人びとが様々な「学び」をおこなう場でもあり、江戸時代以降、この地域には様々な教育施設や宗教施設が設立され、今日にいたる「学生街」や博物館・美術館・大学などが建ち並ぶ上野公園等が形成されてきました。こうした成り立ちを地域の魅力のひとつとして捉えて今後に繋いでいきたいと、公開塾の連続セッションを予定しています。

■フォーラム『社寺会堂塾の可能性：これからの学びの場を考える』

日時：4月14日（木）会場：神田明神文化交流館

■シンポジウム『学びとは何か - 我々は何をどのように学んできたか、そしてこれから？（仮題）』

日時：5月5日（木）会場：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター



## 活動記録

### 研究会

- 2021年4月1日 (オンライン)
- 2021年6月1日 (オンライン)
- 2021年8月5日 (オンライン)
- 2021年10月6日 (オンライン)
- 2021年12月7日 (オンライン)
- 2022年3月9日 (オンライン)

### ラウンドテーブル『ポストコロナ禍の社会に宗教はどう応えていくのか』

- 2021年5月5日 (御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター)
- 新型コロナウイルス感染症の流行拡大により中止

### 崖東夜話

- 2021年10月22日 (六施設)

### T-Cha 特集取材

- 2021年12月2日 (アッサラームファンデーション)
- 取材内容はT-Cha No.17に掲載

### 地図ファブ・社教会堂ジョイント企画 六施設への聞き取り

- 2022年2月16日 (神田明神)
- 2022年2月25日 (湯島天満宮)
- 2022年3月1日 (寛永寺)
- 2022年3月1日 (アッサラームファンデーション)
- 2022年3月28日 (湯島聖堂)
- 2022年4月8日 (ニコライ堂)

## メンバー 五十音順・敬称略

稲葉 あや香	東京大学大学院
宇野 求	建築家・東京理科大学嘱託教授
押見 匡純	湯島天満宮権宮司
金井 康子	東京文化資源会議事務局：PM
国広 ジョージ	国土館大学教授
高 佳音	東京理科大学講師
齋藤 希史	東京大学教授
清水 祥彦	神田明神宮司
対中 秀行	東京復活大聖堂教会主任司祭
平 正路	湯島聖堂 斯文会顧問
張 競	明治大学教授
鳥居 繁	神田明神権禰宜
中島 隆博	東京大学教授
中村 雄祐	東京大学教授
モハメッド ナズィール	アッサラームファンデーション代表理事
サーラさをり ナズィール	アッサラームファンデーション役員
広田 直行	日本大学教授
藤井 恵介	東京大学名誉教授
宮部 亮侑	東叡山寛永寺執事
宮本 英尚	湯島聖堂 斯文会常務理事
山崎 繭加	華道家
横山 泰子	法政大学教授
吉見 俊哉	東京大学教授：座長

崖  
東  
夜  
話  
第  
二  
夜

本郷地帯をはじめとした東京の東の台地には多くの文化・宗教施設があります。その崖の下には昔は海が広がっていたことから、「崖の東で、夜静かに、普段忙しくて忘れていたことを語り合おう」という思いで「崖東夜話」が名付けられました。「崖東夜話」での取り組みは、湯島神田上野地域に存在する文化・宗教施設の歴史的・文化的・社会的意義を再発見し、これからの日本社会における豊かな精神文化醸成の重要性について考えるきっかけとなると同時に、昼間の喧騒を忘れ、夜という時間帯で開催することで、ゆっくり、じっくり、ものを観たり、学んだり、考えたりする新しいナイトライフ・生活スタイルを社会に提案していきます。

2021年 10月22日

13:30 - 15:30 ※第1部はネット配信(無料)も予定しています

**第1部 ポストコロナ禍社会の『やすらぎ』とは何か -新しい精神文化の役割**

日本の新しい精神文化の在り方を考えるため形成された湯島神田上野社教会堂研究会の5年以上にわたる活動を通じた参加6施設の連携の進展と、これまでの活動成果を広く社会に公開することを目的として、第1部ではラウンドテーブルを開催し今後の日本の新しい精神文化の在り方と学術・宗教施設の役割について議論します。

■日 時：2021年10月22日(金) 13:30 - 15:30 ■場 所：神田明神文化交流館 令和の間  
 ■参加費：1,000円 ■定 員：30名  
 ■討論者：大川玲子(明治学院大学教授) 押見匡純(湯島天満宮権宮司) 対中秀行(ニコライ堂主任司祭)  
 土居 浩(もつくり大学教授) 中島隆博(東京大学教授) 西村 明(東京大学准教授)  
 吉見俊哉(東京大学教授)：司会

17:00 - 19:00

**第2部 やすらぎをもとめて -音のひびき2**

参加する6つの文化・宗教施設でその具体的な意義を体験していただきます。第1部は頭で理解し、第2部ではそれぞれご自身の体で体験していただくという趣向です。ご自分の関心に応じて、儒学、神道、イスラム教、仏教、東方正教の精神性を体験してください。

■日 時：2021年10月22日(金) 17:00 - 19:00 ■場 所：各施設・各会場  
 ■参加費：1,000円 ■定 員：10 - 30名(各会場で異なります)  
 ■各施設での催し内容  
 寛永寺 声明のお話  
 アッサラームファンデーション 死後の世界とクルアーンの読誦  
 湯島天満宮 言葉体験 -本殿で祝詞(大祓詞) 奏上-  
 神田明神 雅楽のお話と演奏  
 湯島聖堂 江戸期伝来の中国文人音楽三種-魏氏明楽- 心越派琴曲・清楽-  
 ニコライ堂 正教と聖歌のお話

第2部の後にネーガホテル上野東京に宿泊する宿泊プランもご用意しました。詳しくはホームページをご覧ください。

【お申込み・お問合せ】  
 お申込みは、第1部と第2部でそれぞれのお申込みとなります。  
 ホームページ (<http://gaitoyawa.jp>) または右記QRコード) よりお申込みください。  
 お問合せ：東京文化資源会議事務局 [info@tcha.jp](mailto:info@tcha.jp)

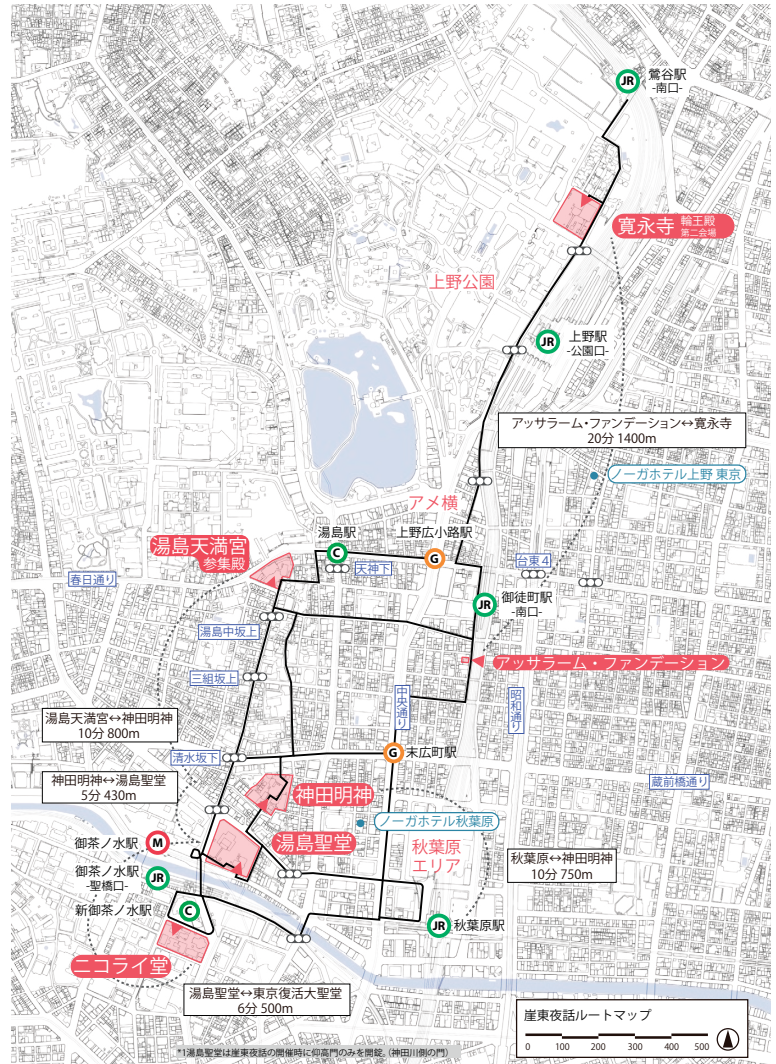
【主催】東京文化資源会議 (協)アッサラームファンデーション 寛永寺 神田明神 湯島天満宮  
 ニコライ堂 (日本ハリストス正教会教団・東京復活大聖堂教会) 湯島聖堂 (斯文会)











## 活動概要

かつて本郷には、下宿屋の流れを汲んだ旅館街、そして銭湯、さらには学生街を形成していた古書店や喫茶店などの商店を中心に、様々な「文化」が培われてきていました。しかし、現在の本郷の街を見てみると、そうした文化資源と呼べるものはほとんど姿を消しています。

私たちは、東京文化資源会議の協力のもと、文京建築会コース・株式会社松下産業・東京大学（知能機械情報学専攻／都市工学専攻）・跡見学園女子大学・行政関係者・地域住民など、本郷にゆかりがある個人・団体が集まり、本郷の魅力発信につながる文化資源の保全・活用を目指して活動をしています。

活動発足から6年目となる2021年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた活動ができない状況ではありましたが、地道に活動を続けてきました。

## 取組み方針

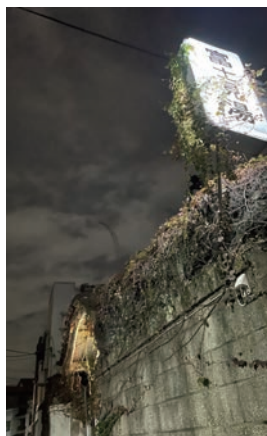
「本郷地域における保全・記録の対象とすべきものの発掘・リストアップを行い、対象を選んで活用提案やまちづくりファンド等の適用等を検討し、実際の保全につなげる。例年の活動（本郷のキオクを語り聞かす会）等も継続し、引き続き本郷の文化資源の記録・発信を進める。」

## 2021年度の活動記録

- 4/14（水） 東大都市デザイン研究室 プロジェクト報告会 @zoom
- 5/5（水祝） 東京文化資源会議 イベント「ひじりばし博覧会2021」（本郷PJの出展は中止）
- 5/12（水） 第45回ミーティング @zoom
- 6/11（金） 本郷物品3Dスキャン @ 白山倉庫
- 6/16（水） 第46回ミーティング @zoom
- 6月中旬～7月 鳳明館森川別館記録調査（法政大学・東京大学・東京ケーブルネットワーク他）
- 7/21（水） 第47回ミーティング @zoom
- 8/23（月） 第48回ミーティング @zoom
- 9/28（火） 第49回ミーティング @zoom
- 10/26（火） 第50回ミーティング @zoom
- 10月～12月 東大大学院 URBAN DESIGN STUDIO 2021「本郷通りの保全と再生」運営協力
- 11/25（木） 第51回ミーティング @zoom
- 11月末 富士見湯記録調査
- 12/20（月） 第52回ミーティング @zoom
- 2月末～3月末 富士見湯記録調査



富士見湯記録



## 「鳳明館森川別館記録調査（法政大学・東京大学・東京ケーブルネットワーク他）」

2021年6月中旬～7月

栗生はるか座長が窓口となり、法政大学の授業「フィールドワーク」（指導教員：高村雅彦、高道昌志、TA：森谷薫平等）の一環として休館中の鳳明館森川別館の実測調査等を実施。本郷のキオクの未来チームメンバーや東京大学の学生もサポートとして参加した。また、東京ケーブルネットワーク株式会社の松尾遼率いるレーザースキャンチームがデジタル3Dスキャンデータの記録を行った。

## 「富士見湯記録調査」

2021年11月末、2月末～3月末

同じく休業中の富士見湯は残り僅かな文京区の銭湯の一つで、昔ながらの希少な宮造り銭湯である。こちらについても、本郷のキオクの未来チームメンバーを中心として、ヒアリングに加え建築の実測調査や写真、全天球、映像、レーザースキャンによる記録を実施した。

## 本郷のキオクの未来プロジェクトチーム 事務局

座長：栗生はるか（文京建築会コース）

PM：細見直史（株式会社松下産業）・三文字昌也（東京大学大学院）

会計及び事務サポート：NPO 法人 街ing 本郷



鳳明館記録調査の様子

## 活動概要

スポーツ文化資源プロジェクトチームでは、既成の枠組みを超えて、新しい”遊び”の場を文化資源区に生み出すことを理念としています。2021年度は、座長に新雅史（流通科学大学商学部）さんを迎え、新体制のもと発足以来続けてきた日常的な”遊び”の空間を地域に埋め込むことを目標とした活動と並行して、東京オリンピック・パラリンピック開催にあわせてパラリンピックに焦点を当てたイベントを実施しました。

## 東京2020日本代表佐々木一成選手と語ろう「パラリンピックのレガシーを考える：ポストコロナにおけるスポーツとは？」

2021年11月20日（18時～20時）に、Mace千駄ヶ谷で「東京2020日本代表佐々木一成選手と語ろう「パラリンピックのレガシーを考える：ポストコロナにおけるスポーツとは？」」を実施しました。参加者は14名でした。

前半は、シッティングバレーボール日本代表としてパラリンピックに出場された佐々木一成さんとパラリンピック聖火ランナーとして参加された高橋圭さんによる対談形式で、今大会の舞台裏の様子や「ウィズコロナのパラリンピックにみるスポーツの新しい姿」についてお話いただきました。後半のワークショップでは、アスリートだけでなく運営スタッフやボランティアなど大会関係者、視聴者など、参加者それぞれの立場から東京2020オリパラの経験を共有し、今大会の「レガシー」を議論しました。こうした振り返りを通じて、東京2020オリンピック・パラリンピックを「コロナ禍による例外状況」として忘れ去るのではなく、かつてない経験から新しいスポーツ文化の可能性を考える機会となりました。

登壇者の佐々木一成選手によるイベントの振り返り note  
[https://note.com/kazunari\\_sasaki/n/n354b828a70a4](https://note.com/kazunari_sasaki/n/n354b828a70a4)

## 活動記録（開催日 / 場所 / 内容）

- 2021年7月9日 / オンライン  
プロジェクトチーム定例会：今後の活動方針策定
- 2021年9月29日 / オンライン  
プロジェクトチーム定例会：座長交代の報告と「東京2020」をテーマとしたイベント実施について相談
- 2021年10月20日 / オンライン  
プロジェクトチーム定例会：「東京パラリンピック」イベント打ち合わせ
- 2021年11月4日 / オンライン  
プロジェクトチーム定例会：「東京パラリンピック」イベント打ち合わせ
- 2021年11月20日 / Mace千駄ヶ谷  
東京2020日本代表佐々木一成選手と語ろう「パラリンピックのレガシーを考える：ポストコロナにおけるスポーツとは？」イベント実施
- 2022年3月12日 / オンライン  
プロジェクトチーム定例会：次年度の活動方針策定
- 2022年3月26日 / オンライン  
プロジェクトチーム定例会：ひじりばし博覧会企画相談

## スポーツ文化資源 PT メンバー

- 新雅史（流通科学大学商学部）
- 逢坂裕紀子（東京大学文書館）
- 角谷幹夫（V3 Kadoya）
- 川田幸生（NPO 法人スマイルクラブ）
- 近藤純子
- 佐々木一成（一般社団法人プラスハンディキャップ）
- 澤井和彦（明治大学商学部）
- 鈴木直文（一橋大学大学院社会学研究科）
- 高橋圭（株式会社フクフクプラス）
- 高橋義雄（筑波大学人間総合科学学術院人間総合科学研究群スポーツウエルネス学学位プログラム）
- 堂免隆浩（一橋大学大学院社会学研究科）
- 福田哲郎（公益財団法人日本サッカー協会）
- 森田暁（東京地域史研究）
- 柳与志夫（東京文化資源会議事務局長）





## 第二次構想から芽吹いた自律的・継続的なまちづくり的なアクション

上野スクエア構想 PT が 2018 年度にとりまとめた『第二次上野スクエア構想』では、不忍池から末広町にかけて広がるエリアに改めて着目した上で、大きく「不忍池周辺の再編」「仲町通り商店街の活性化」「御徒町・湯島・末広町エリアの再発見」という3つの取り組みの方向性を示しました。それを受ける形で、まず「仲町通り商店街の活性化」に向けたアクションを始めました。当初の地元への声かけこそ PT メンバーから行ったものの、さほど時間を要さないうちに上野スクエア構想 PT という枠を大きく超えた人のつながりの中で、まちづくりのアイデアとトライアルが自律的・持続的に起こってくるようになっていきます。そのような関係性の中で、この3年ほどの期間にわたって仲町通り界隈を舞台として「アーツ&スナック運動」「ガイトウスタンド（2021年

度グッドデザイン賞受賞）」「しのばず遊ぼう！池と町」といったまちづくりを意識した多彩なアクションが実現されてきました。通りの雰囲気も少し変わってきつつあるかも知れません。コロナ禍の逆風を受けながらも、地元の方々がワクワクしながら自律的・持続的なまちづくりに取り組んでいるという状況を伸ばすべく、上野スクエア構想 PT として表立った動きを取ることは控えて、何人かの PT メンバーも個人の立場から関わる形を取っています。仲町通りで芽吹いたまちづくりの動きが、「不忍池周辺の再編」や「御徒町・湯島・末広町エリアの再発見」という方向へも少しずつ広がっていくことを期待しつつ、今は、地元のまちづくりアクションを見守るような形で、地道な時間を重ねています。

## 仲町通りに芽吹いたまちづくり的なアクション（イメージコラージュ）



## 活動の概要

第2期リノベーションまちづくり制度研究会（リノベ研）では、東京都区部の歴史文化資源を活用したまちづくり団体等の横連携を図るものとして「東京歴史文化まちづくり連携」の立ち上げと活動支援（支援制度等の検討を含む）を活動目標に掲げ、「東京歴史文化まちづくり連携」の意見交換を行いながら、まちづくり推進上の課題の抽出・整理と法制度提案も含めた解決策の検討を行うべく、オンライン会議等を進めていました。

しかし、具体的に検討を深めていくには、現場の状況・課題に即して検討を進める必要があり、その機会をうまく設えられず、活動が停滞してしまう傾向にありました。そこで、改めて進め方等を検討し、参加団体が主体的に運営していく形で「東京歴史文化まちづくり連携」を立ち上げ直すこととし、2022年度は、各まちづくり団体が持ち回りで主催する連続勉強会を重ねながら、団体間の交流の活性化、現場の抱える課題の抽出・整理、解決策の検討等を進められれば、と考えています。

## 活動の記録（2021年1月～2022年3月）

- 2021年2月5日 「東京歴史文化まちづくり連携」意見交換会（オンライン）
- 2021年3月9日 リノベ研研究会（オンライン）
- 2021年4月6日 リノベ研研究会（オンライン）
- 2021年4月23日 「東京歴史文化まちづくり連携」意見交換会（オンライン）
- 2021年5月5日 「東京歴史文化まちづくり連携」意見交換会（オンライン）
- 2021年11月12日 リノベ研幹事会（オンライン）
- 2022年2月22日 リノベ研幹事会（まちづくり団体のコアメンバーを含む）（オンライン）
- 2022年3月10日 一部まちづくり団体代表による座談会（※東京文化資源会議ニューズレター「T-cha」収録用）

## 第2期リノベ研メンバー（順不同・敬称略）

委員 田村誠邦（明治大学 アークブレイン）【座長】	鈴木俊治（芝浦工業大学 ハーツ環境デザイン）
小泉秀樹（東京大学）【副座長】	山本玲子（全国町並み保存連名）
飯塚洋史（quod）	小野道生（都市計画設計研究所）【PM】
佐々木昌二（土地総合研究所 元国交省）	オブザーバー 中山靖史（UR 都市機構）
椎原晶子（国学院大学 たいとう歴史都市研究会）	柳与志夫（東京大学 東京文化資源会議事務局長）

## 意見交換会に提示したリノベーションまちづくり制度を検討する視点と方向性（案）

### ■課題解決策の視点・方向性の整理（案）

#### 市場とうまく折り合いをつけていく

- ・ 高い指定容積率、高い地価、旺盛な開発圧力等の環境が前提にある
- ・ 特区など都市開発諸制度の空間・事業のバリエーションは少なく、歴史文化まちづくりは視野に入らない
- ・ この市場環境との調整の視点が要る

#### 法制度の柔軟な適用・運用を探索

- ・ 古い木造建物等が既存不適格となり建物のよさを残した修繕等が難しい
- ・ 路地空間や街並み等も建築基準法の基準等とバッティングする
- ・ 歴史文化まちづくりにとって合理的な基準や運用が求められている

#### リノベ後のデザインの質を高める

- ・ 東京区部の歴史文化資源は、いわゆる重伝建のような外観を持つことはまれで、“普通”であることが多い
- ・ 受け継ぐべき歴史的な価値、更新で付加する今日的な価値などを反映した質の高い街編みデザインを目指す

#### 歴史文化まちづくり特区を考える

- ・ 都市再生と歴史文化まちづくりが東京区部のまちづくりの両輪と捉え、都市再生緊急整備地域と対をなすような、歴史文化まちづくり施策を適用していく特別地域の設定を考える
- ・ そこでの特別な制度展開を構想する

#### 多様な資金調達の見出す

- ・ 老朽化・高齢化の進む歴史文化まちづくりの様々な局面で必要となる費用の捻出が大きな課題になっている
- ・ 補助金にとどまらず、低利融資、プロジェクト投資、収益性向上など、多様な資金調達の仕組みを用意する

#### 多様な担い手の発掘・育成を促す

- ・ 所有者の高齢化を踏まえると、維持管理から利活用までさまざまな局面を担う多様な担い手が必要となる
- ・ 所有者が貸したがらない、借り手が見つからない等のギャップの解消と併せて、担い手の発掘・育成を図る

### ■検討の方向性（案）

#### 実践上の隘路の調査

- ・ 歴史文化まちづくりの実践を通じて認識されている障害、特に法制度上の制約を把握

#### モデルスタディ

- ・ 課題解決に向けた制度の効果等をモデルスタディで検討・検証
- ・ 各地区で進められている検討も含め、対象・テーマ等を設定
  - ・ 建築基準法の緩和
  - ・ 容積移転
  - ・ 税制優遇
  - ・ 事業採算試算 等

#### 先行事例等の研究

- ・ 歴史文化まちづくりで実践されている課題解決策の工夫等の研究

## TTT 計画案のアップデート

前年度（2020年度）までに作成・ブラッシュアップをしてきた構想案をベースにしつつ、コロナ禍において浮き彫りとなった新たな課題への対応も念頭に置き、TTT計画案全体のアップデートを進めた。

### 【プロジェクトミッションのアップデート】

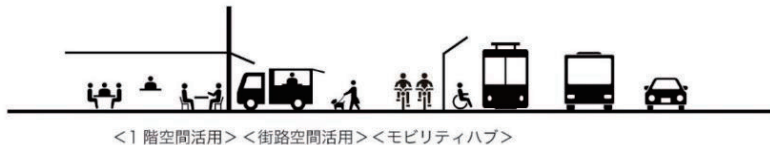
ポストコロナにおける都市の再生に寄与し、  
21世紀の東京の居心地よく賑わいのある公共街路空間で、  
市民が主体的かつ能動的に活動を展開でき、  
安全安心に多様な人々の交流を行うことができる社会の実現を目指す



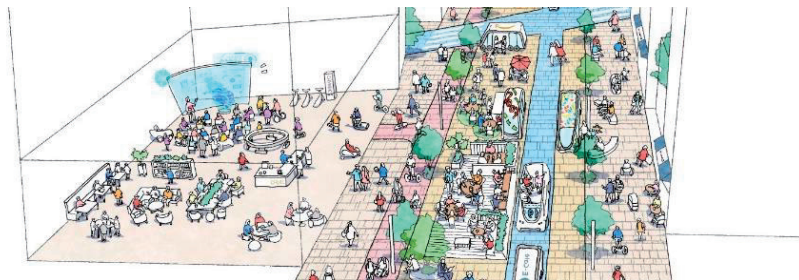
### 【計画案のアップデート】

スローモビリティの導入を主軸とした計画から、  
街路空間活用の視点も強化し、ウォークブルな街づくり、  
地域活性化施策に寄与する都市モデルの構想へ

<コミュニティ活性・創業支援><にぎわい活性・回遊性向上> <新型モビリティ検討>



<グランドレベル店舗/私設公民館> <空地> <歩道><スローモビリティ> <車道>  
<-----民地-----> <-----公共空間----->



人間中心の街路空間のイメージ（出所：モビまち研）

スローな近隣移動体験を豊かにすることで  
街路空間から沿道商業の活性化を図る

- ・街路を活用した社会実験で、街路を歩行者に開放し、新しい賑わいを創出する。
- ・一極集中の密な賑わいではなく、生活文化を感じる回遊性を生み出し、地域の安心した面的な移動環境の実現を目指す。

世界の新しい街路や公共空間を活用した  
都市再生事例の研究から東京モデルを構築

- ・コロナ禍に前後して世界中で取り組まれている人中心の街路空間の再生事例を研究し、東京の新しい文化的な街路空間づくりから東京都心部の再生策を検討する。

## 2022年度の活動について

ポストコロナにおける面的な地域活性化施策に寄与する街路空間活用の社会実験の実施し、人間中心のスローな街路空間の活性化を提案していくことを目指す。

### <アクション>

- ・計画案の更なる具体化
- ・文化資源が集積する東京都心区を対象にした社会実験の計画と実施
- ・街路空間活用による都市モデルの調査研究

## プロジェクト概要

浅草・銀座・新宿・渋谷……東京には、各時代を象徴するまちがありました。戦後、電気街として復興を遂げた秋葉原は、90年代後半からオタク文化の勃興と共にまちの特異性に注目が集まるようになります。00年代以降は時代を象徴する街として日本のみならず世界中から人々を引き寄せるようになりました。

10年代以降は、大規模な再開発事業が完成し、インバウンド観光客を見据えて複数のホテルが進出してくるなど秋葉原の空間に新しい変化がみられました。また、オタク文化に関連しても、新たなライブエンターテインメントであるe-Sportsに関連する施設が増えたりしています。しかし、まちについてのイメージは、依然として00年代に成立したものを打破できておらず、空間の変化に伴った新たなビジョンも提示されていない印象を受けます。

こうした変化の中にあるにも関わらず、まちとして将来を見据えた新たなビジョンが提示できていない状況に対する危機感を持ち、それでも秋葉原が持つポテンシャルを信じて「広域秋葉原作戦会議」プロジェクトは発足しました。本プロジェクトでは、秋葉原の「辻」的性質に注目します。江戸時代からの歴史に目を向けると、秋葉原は周囲との深い関係性の中に生まれたまちでした。ヒト、モノ、コト（情報）を通じて周囲の文化が集まってくる交差点、すなわち「辻」として機能しているまちが秋葉原なのです。

そこで本プロジェクトでは、地理的にも意味的にも狭義の秋葉原に止まらず、秋葉原と周囲のまちを1つの広域エリア「Greater Akiba（グレートアキバ）／広域秋葉原」として捉え、エリア全体の歴史と現状を踏まえながら、まちの進化と将来像を検討することにしました。秋葉原にある多種多様な文化資源の把握と、それらを生かした新たなまちの未来像の提示を行っていきます。

座長：

庄司昌彦（武蔵大学教授）

プロジェクトマネージャー：

菊地映輝（国際大学 GLOCOM 研究員・講師）

井上奈智（国立国会図書館）

## 2021年度の主たる活動

2021年度は、前年に引き続き、新型コロナウイルスの流行により対面での活動に制約が出た年でした。広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、オンラインでの活動に加え、感染対策を徹底した上でリアルな取り組みも一部行うといったハイブリッドな活動を実施しました。

### 【2021年度の主な活動（定例会議は除く）】

- 2021年4月 「広域秋葉原放送局 in しのぼず中継」 放送開始
- 2021年5月 アキバテクノクラブでPM 菊地が講演
- 2021年6月 「広域秋葉原放送局 in しのぼず中継」 放送終了
- 2021年7月 外神田一丁目再開発計画についての集中討議実施
- 2021年8月 「秋葉原歴史論争 ～ The 延長線～」を神田明神にて開催
- 2022年1月 50回目の定例会議を実施

## 広域秋葉原放送局 in しのぼず中継

昨年度に引き続きオンライン番組の放送を行いました。今年度として、2021年の4月から6月にかけて隔週月曜日の18:00から50分間、オノデン秋葉原本館ビル1階にあるAkiba.TV STUDIO in ONODENにて生放送を行いました。

【各回詳細】 ※は広域秋葉原作戦会議プロジェクト企画

### 4月5日 秋葉原歴史論争 ※

岸川雅範（神田明神禰宜・歴史家）、森田暁（まち歴史家）、山野井健五（ムラヤマ）、栗生はるか（法政大学）、菊地映輝（国際大学）

### 4月19日 秋葉原 vs 池袋 ※

植野淳子（アーイメージ）、中島明（としま会議）、ササキチ（MR. 秋葉原）、菊地映輝（国際大学）

### 5月3日 メディアとしての秋葉原

森川嘉一郎（明治大学）、吉見俊哉（東京大学）、玉置泰紀（KADOKAWA）



広域秋葉原放送局 in しのぼず中継

## 5月17日 アキバでトラムを語る

中島伸（東京都市大学）、廣瀬通孝（東京大学）、  
田中元子（グランドレベル）

## 6月7日 超辻性再考～広域秋葉原とする意義～

庄司昌彦（武蔵大学）、福岡俊弘（デジタルハリウッド大学）、  
遠藤諭（角川アスキー総合研究所）、伊藤香織（東京理科大学）

## 6月21日 メイドカフェとアイドル ※

上岡磨奈（慶應義塾大学社会学研究科）、  
有里彩（アイドル親善大使）、まほれ（外神田メイド協会代表）、  
中村香住（慶應義塾大学大学院非常勤講師）

## アキバテクノクラブでの講演

数年に渡る活動を通じて、秋葉原の中でも本プロジェクトの存在が段々と知れ渡って来ました。2021年5月には、秋葉原の産学連携プラットフォームであるアキバテクノクラブに招かれ、PMの菊地映輝がプロジェクトのこれまでの活動を今後の展望について講演を行いました。

## 外神田一丁目再開発計画についての集中討議

秋葉原駅にも近いグレーターアキバの主要エリアである外神田一丁目地区において、現在再開発事業が計画されています。この計画に対して、本プロジェクトとしてどのような関わり方が出来るのかについて、2021年7月にプロジェクトメンバーが集まり集中討議を行いました。討議の結果、これまでの本プロジェクト活動に基づいた独自の再開発の方向性が提案としてまとめられ、再開発の関係者にも共有されました。

## 「秋葉原歴史論争～The 延長線～」

「広域秋葉原放送局 in しほらず中継」の初回では、「秋葉原歴史論争」として秋葉原の街の歴史について議論を行いました。2021年8月には「秋葉原歴史論争～The 延長線～」として、その続編となるシンポジウムを神田明神で開催しました。本シンポジウムには、オーディエンスとして秋葉原の街のステークホルダーや歴史愛好家も集まり白熱した議論が行われました。

## 50回目の定例会議

本プロジェクトでは、一月に一回のペースで定例会議を行い、プロジェクトの活動内容や活動方針を議論したり、各種取り組みの進捗を共有したりしています。さらには、メンバー各人のアンテナに引っかかった広域秋葉原エリアの情報を交換する場にもなっており、私たちの活動にとって非常に重要なものとなっています。そんな定例会議ですが、2022年1月31日（月）で50回目の開催を迎えました。それを記念し、プロジェクト有志による神田明神参拝というイベントも実施しました。

**秋葉原歴史論争 ～The 延長戦～**

2021年4月5日にYouTubeライブにて放送された『秋葉原歴史論争』（広域秋葉原放送局 in しほらず中継#01）。50分の放送時間内では秋葉原の歴史を語り尽くすことができなかったメンバーから延長戦開催の要望があった。暑い夏、秋葉原を見守り続ける神田明神にて新たなゲストを加えての延長戦がはじまる。

日時：令和3年8月21日（土）15:00～17:30  
会場：神田明神 祭務所地下参集所  
定員：60名（オンライン放送も予定）  
※下記URLまたはQRコードよりお申込み下さい。  
<https://form.kandamyoujin.jp/akihabara/>  
料金：無料  
主催：神田明神  
広域秋葉原作戦会議

■プログラム（一部変更になることがあります）  
15:00 来賓挨拶 樋口 高顕（千代田区長）  
15:10 趣旨説明「AKIBAと神田明神一讀らない文化としての秋葉原」 岸川 雅範（神田明神）  
15:20 基調講演「まちづくりのタネの探し方 まちの歴史ということ、思い出ということ」 真鍋 陸太郎（東京大学）  
15:40 ラウンドテーブル「秋葉原の来し方行く末」 栗生 はるか（文京建築会ユース） 森田 暁（まち歴史家） 山野井 健五（株式会社ムラヤマ） 真鍋 陸太郎（東京大学） 加藤 哲平（神田明神） 菊地 映輝（国際大学）  
17:25 まとめに代えて 菊地 映輝（国際大学）  
17:30 終了

はし組輪寺 神田明神 広域秋葉原作戦会議



外神田一丁目再開発計画についての集中討議



神田明神参拝

## 活動概要および今年度の活動

ほとんど活用されていない夜間の上野公園の利活用を中心に、その周辺地域と密接に連携しながら、文化資源区が保有する歴史性と多様性を持った文化資源の発掘・保全・活用を展開していくため、2018年10月に上野ナイトパーク構想会議を立ち上げ、2019年2月に「上野ナイトパーク構想」を発表しました。その後、東京文化資源会議及び賛同する賛助会員社から成る企画委員会において構想の具体化を検討し、モデル事業的意味をもつ「上野ナイトパーク 2020 spring」を文化庁の助成金を得て上野公園で2020年3月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期となりました。しかし、企画・準備過程を通じて東京都庁、上野公園管理事務所、上野公園内の美術館・博物館等各施設との協力関係も構築することができました。

企画委員会では、引き続き構想に基づく具体的対応を検討・実施するとともに、構想を本格的に実現するために、上野公園の公園管理組織（PMO）の設置に向け、東京文化資源会議を始めとして上記の趣旨に賛同する関連諸団体（企業、各種団体等）が集まり、上野公園PMOの設置に向けての推進力となりうる連携組織「上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）」を立ち上げました。UNPCの事業として、文化庁による「令和2年度博物館・文化財等におけるナイトタイム充実支援事業」を採択し、公園や文化施設と連携した夜間活用事業を進めてきました。本事業は、新型コロナウイルスの流行による緊急事態宣言の発出に伴い、当初想定していた上野公園全域を活用した事業の実施はかないませんでした。東京国立博物館の夜間開館を活用した付加価値の高いナイトミュージアム事業や、クリエイターやアーティストを目指す10代の若者たちが集うクリエイターズスクールと連携し、国立科学博物館の研究者らと、作品や展示の魅力などをトークするポッドキャスト番組の開設による情報発信事業などを行うことができました。

これらを踏まえて、UNPCでは本年度は活動方針を再検討し、具体的な活動指針およびアクションプランの策定に向けて議論を重ねてきました。その一環として、コロナ禍を通じた変化や今後の上野公園の可能性、上野周辺地域一帯のこれからのあり方について、文化施設や上野公園関連の諸団体、地元商店街へ個別インタビューを行うとともに、インターネット調査を通じ、一般の方々に対するアンケート調査を実施いたしました。これらの調査やヒアリングを通じて見えてきたことをご報告する機会として、第1回UNCPフォーラムを開催しました。

地域が抱える課題、上野公園の利用実態調査を明らかにすることで、具体的なアクションプランへと落とし込むステップとしていきたいと考えています。

### 第1回UNCPフォーラム開催（2022年3月17日）

コロナ禍を通じた変化や今後の上野公園の可能性、上野周辺地域一帯のこれからのあり方について、2021年11月から2022年1月にかけて、各文化施設や上野公園関連の諸団体、行政機関、地元商店街へ個別インタビューを行うとともに、インターネットを通じ、上野公園の利用実態調査を行うため一般の方々に対するアンケート調査を実施いたしました。これらの調査やヒアリングを通じて見えてきたことをご報告する機会として、第1回UNCPフォーラムを開催しました。

インタビュー調査では、東京国立博物館、国立科学博物館、西洋美術館、東京都美術館、上野の森美術館、東京文化会館、東京藝術大学美術館、寛永寺、上野動物園、上野東照宮、上野公園管理

事務所、東京都、台東区、東京都公園協会、精養軒、東天紅、上野観光連盟、JR東日本、京成電鉄、たいとう歴史都市研究会、コマンドN等、21施設・機関・企業・団体の方々にお話を伺うことができ、上野公園を軸に、上野地域一帯の課題や今後の可能性についてインタビューを行うことができました。調査をまとめた報告書をもとに、フォーラムでは各種調査の報告および報告内容を踏まえた関係者の方々からの議論の場とさせていただきます。

フォーラムでいただいた皆様からのご意見を踏まえ、UNPCにおける活動方針のブラッシュアップ、および具体的なアクションプランへと落とし込み、次年度以降における具体的な活動内容を推進してまいります。

## 活動記録

2021年5月10日 UNPC 定例会

2021年6月7日 UNPC 定例会

2021年7月21日 UNPC 定例会

2021年9月8日 田良島哲氏による東京国立博物館のデジタル施策に関する勉強会

2021年10月14日 泉山壘氏（日本大学助教）によるパークマネジメントに関する勉強会

2022年1月12日 インターネット調査に関する結果概要の共有等

2022年3月15日 UNPC 定例会および17日のフォーラム進行の確認

2022年3月17日 第1回UNCPフォーラム開催（@黒田記念館）

## メンバー（50音順、敬称略）

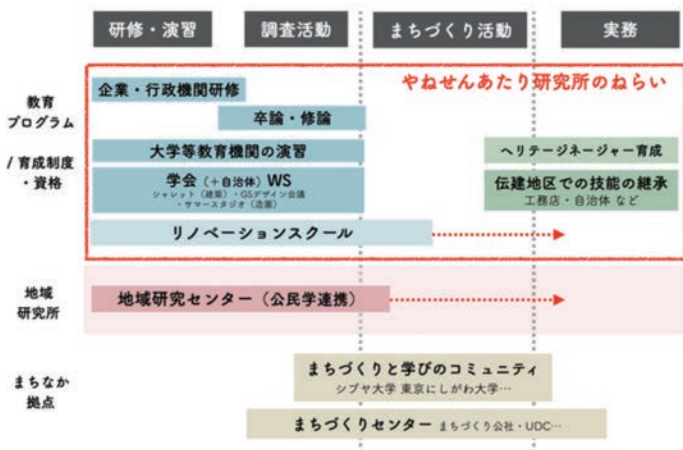
- ・東京文化資源会議（事務局）
- ・朝日信用金庫
- ・合同会社 quod
- ・株式会社 JTB
- ・株式会社大丸松坂屋百貨店
- ・株式会社竹中工務店
- ・株式会社丹青社
- ・株式会社電通
- ・株式会社トーキョーベータ
- ・野村不動産株式会社
- ・YKK 株式会社



第1回UNCPフォーラムの様子

## 活動概要

やねせんあたりとは、谷根千（谷中、上野桜木、根津、千駄木、池之端）と下谷、根岸、弥生、下谷、日暮里などの周辺、生活に結びついた地域の文化資源の積み重ねが感じられる地域です。文化資源会議がその活動目的の1つとして掲げる、「文化資源を活かし地域に貢献できる専門家、実務家の地域での育成」が持続的に行われるには、その基盤として、地域の中に研究、活動を蓄積し、情報を共有するための拠点が必要となります。やねせんあたり研究所は、そのプラットフォームとしての「地域立」の独立した研究機関を目指し活動するものです。「研究所」では、大学や研究室、企業を超え、研究や活動のアプローチや成果を共有すること、文化資源を支える実務、日常生活と研究・教育活動とが交わり、新しい価値を生み出す場を作り出すことを目標としています。



まちなかでの研究、人材育成活動と本プロジェクトの対象

## 活動の方針

地域での実践・研究などの活動、学生の卒業研究や修士研究を発表・共有する研究会などの機会を設定しながら、以下の3点に取り組んでいます。

- 1) 研究・活動の公式な成果とともに、地域との関わり方を合わせて地域に蓄積すること
- 2) 建築、都市、芸術、文化、福祉、教育、医療など、様々な分野の視点からまちに取り組む方のネットワークを構築していくこと
- 3) 地域の中に地域研究とその還元を行う拠点を設けていくこと。

## やねせんあたり研究会 vol.2 の実施

2021年5月5日にやねせんあたり研究会 vol.2 として全面オンラインの研究会を実施した。研究会では、谷中エリアを対象とした研究・実践状況の状況、やねせんあたりを対象とした学生の活動として、卒業研究や修士研究、演習の発表を行った上で、地域で生活・活動する人の中で意識の共有・連携と、地域を軸とした研究・

教育の展開とアーカイブのあり方について議論しました。

## <やねせんあたり研究会 vol.2 プログラム>

### 1. 主旨説明 片桐 由希子（金沢工業大）

### 2. やねせん調査研究のひろがり

- ・背景と近年の活動展開。椎原 晶子（たいとう歴史都市研究会）
- ・花重・たてもの調査。渡邊 尚恵（たいとう歴史都市研究会 / 東京藝術大学）

### 3. 学生発表

- ・卒業研究（谷中）：地域に根ざした歴史的な建物活用の実態。神谷 南帆（横浜国大）
- ・演習（本郷）：歴史的資産の残る街並みとプレイスのデザイン。東京大学大学院チーム（大貫絵莉子 鈴木茜 官尋）
- ・修士研究（谷中）：木造密集市街地における住宅の構えと街並みと制度。鈴木 遼太（明治大）

### 4. 意見交換・今後の活動への展望

1-3の発表者

栗生 はるか（文京建築会ユース）

三文字昌也（本郷のキオクの未来）

やねせんあたり研究所 活動メンバー（五十音順・敬称略）

片桐 由希子（金沢工業大学）

栗生 はるか（文京建築会ユース）

三文字昌也（東京大学大学院 / 本郷のキオクの未来）

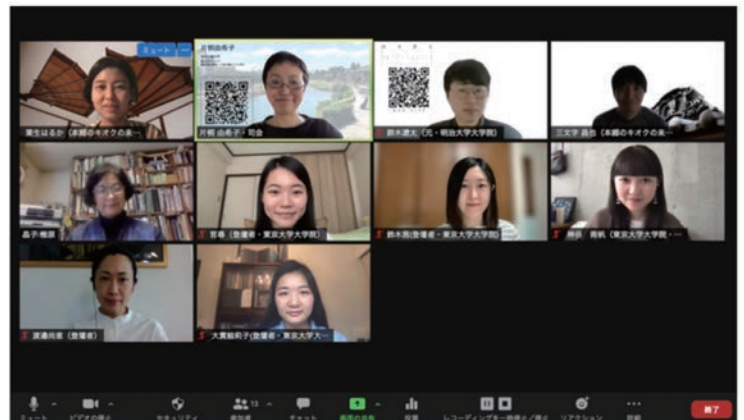
椎原 晶子（国学院大学 / たいとう歴史都市研究会）

やねせんあたり研究会 vol.2 アーカイブ：

<https://youtu.be/tbHrEM3Vvll>

Facebook：

<https://www.facebook.com/yatarilab>



やねせんあたり研究会 vol.2 の様子

活動概要

神田駅エリアでは昨今の都心回帰の流れで大小様々な開発圧力が高まる中で、地域にとって公共性や納得性の高い都市開発やまちづくりが求められてきた。千代田区は警察通り沿道整備協議会を立ち上げ、共通する一つのイメージの神田ではなく、小さな魅力的で個性的なまち、かわいを捉える必要性を認識してきた。開発事業者はそれぞれ再開発協議組合を中心に主に町会と議論を重ね合意を伴う開発を進めている。

このような背景のもと、東京文化資源会議・神田まちづくり懇談会では、大学関係者が中心となり地元の納得感のある開発を進めてもらうため、かわいの特徴を捉える指標の開発を進めている。Tcha No.15では、神田まちづくり懇談会の内容が特集され、中島伸さん、田熊清徳さん、坪田華さん、薄井宏行さんらによるインタビューが掲載されました。

Tcha No. 15 [https://tcha.jp/wp-content/uploads/T-Cha\\_15\\_web.pdf](https://tcha.jp/wp-content/uploads/T-Cha_15_web.pdf)

神田かわい指標の開発

神田かわい指標は、神田のまちまちそれぞれの界らしさを規定する指標を提示し、それらを読み取ることで、神田のまちまちのまちづくりの方針を考えることができることを目的としている。具体的な3地区を対象として、①地区の将来イメージ、②まちづくりの展開予測、③方針に対応する指標イメージ、④指標の可視化、⑤（地区によらない）汎用的な指標一覧、で構成されるものである。

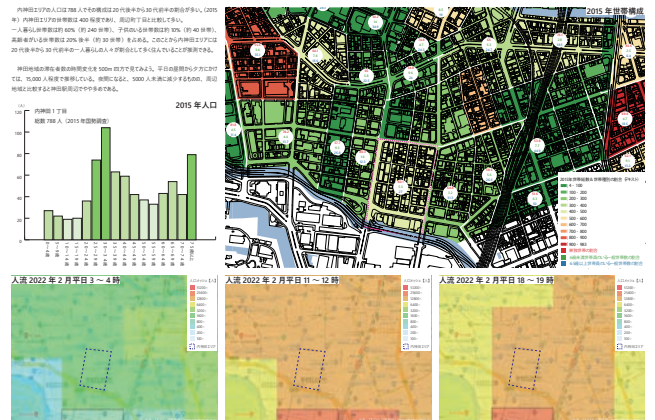
神田まちづくり懇談会で検討した「神田かわい指標」は警察通り沿道整備協議会まちづくり部会でも活用されることを検討している。また、2022年5月5日開催のひじりばし博覧会にて、3地区（内神田、神田駅西口エリア、神田錦町）をモデルケースとしたかわい指標を提示し、その活用方法などを検討するワークショップ（神田まちづくり懇談会）を予定している。

打ち合わせ等実施記録

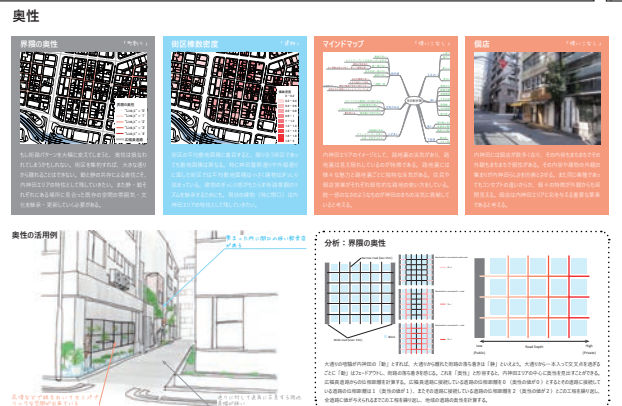
神田まちづくり懇談会は、幹事会にて協議会で議論すべき内容を協議し、懇談会には事業者や町会の方に参加いただき、広く議論を進めている。また幹事会・懇談会以外に個別の課題を詳細に検討するワーキンググループも随時開かれている。なお2021年度は全てオンラインで開催した。

- 2021年4月7日 幹事会
- 2021年4月27日 幹事会
- 2021年9月14日 幹事会
- 2021年10月25日 懇談会
- 2021年11月17日 幹事会
- 2021年12月20日 幹事会
- 2022年1月21日 幹事会
- 2022年2月14日 幹事会
- 2022年2月28日 幹事会
- 2022年3月8日 懇談会

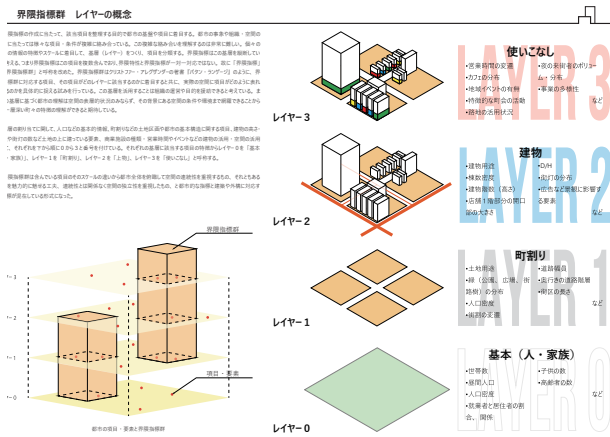
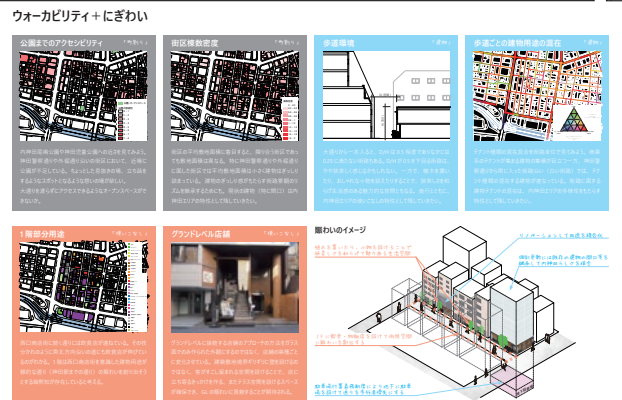
3-1 内神田の人口・世帯（基本：人、家族）



3-2 方針に対応する指標イメージ：歩行を感じるまちの構成



3-2 方針に対応する指標イメージ：歩いて楽しいまち



3-1 内神田まちづくり展開予測

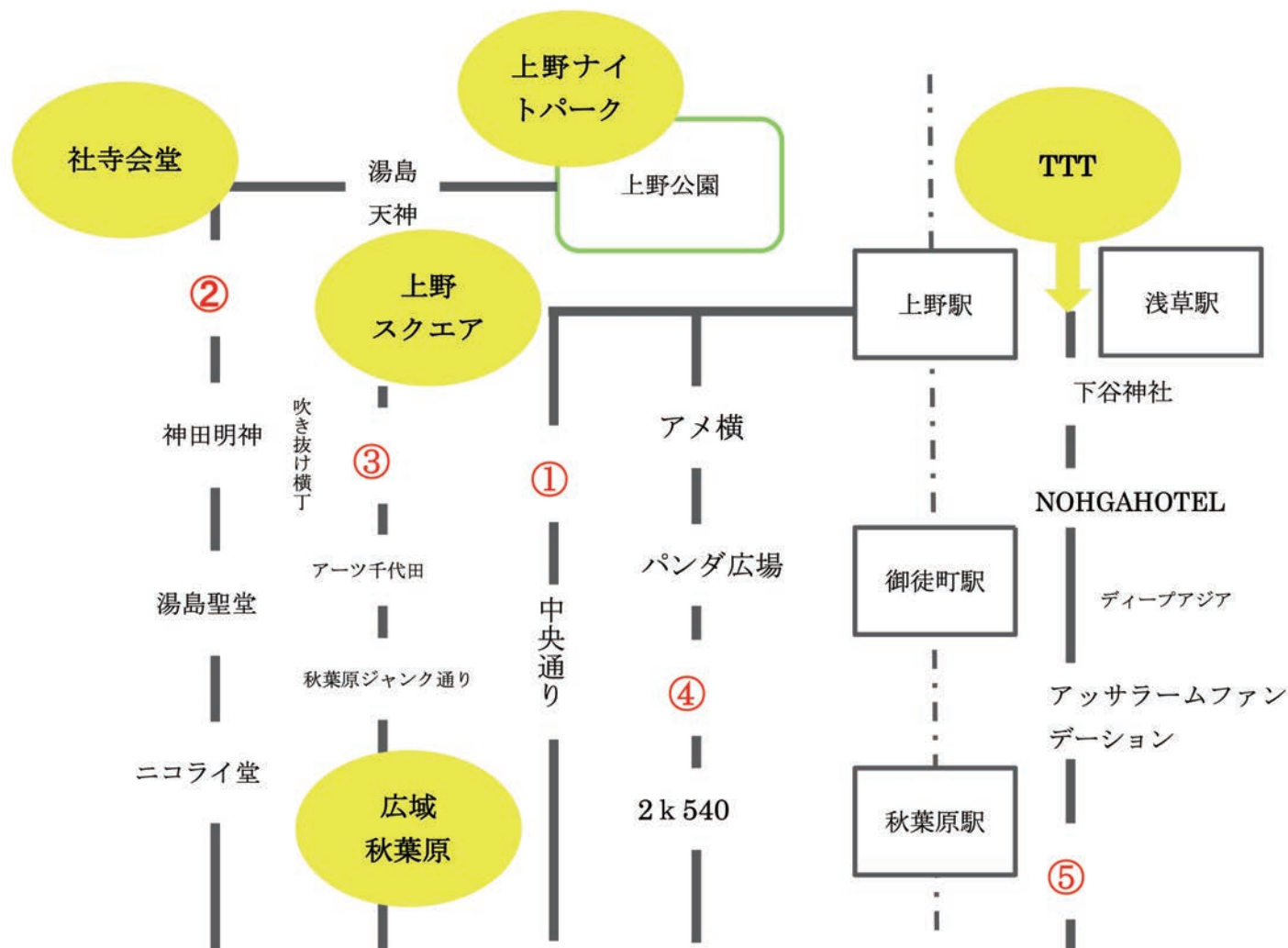




当委員会は2020年12月に、これまで個別に運営されてきた上野関連の幾つかのプロジェクトの連携と統合性を強化するため設置された。各プロジェクトの関係性の整理と、それに基づく上野の全体的プラン構築を目指して検討を進めた結果、上野だけでなく、文化資源区全体の新しい構想に発展させていくことが妥当との結論に至った。そこで、2022年度内の公表をめざした「シン・東京ビジョン（仮称）」の作成をめざすことになり、2021年はその検討を進めた。

委員は以下の関連プロジェクトの座長またはPMを中心に構成され、吉見幹事長が委員長を務めた。

- ・上野ナイトパーク構想
- ・上野スクエア構想
- ・トーキョートラムタウン構想
- ・広域秋葉原作戦会議
- ・湯島神田上野社寺会堂研究会
- ・リノベーションまちづくり制度研究会



参照図：上野から各プロジェクトをつなぐ五つの道筋

「ひじりばし博覧会 2021」は、COVID-19 感染拡大のため 2021 年 4 月 25 日に緊急事態宣言が発出されたことを受け、中止となりました。ここでは、当日予定されていたプログラムをご紹介します。

### ■企画概要

ひじりばし博覧会 2021 in ソラシティカンファレンスセンター

日時：2021 年 5 月 5 日（水・祝）10 時～21 時

場所：御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

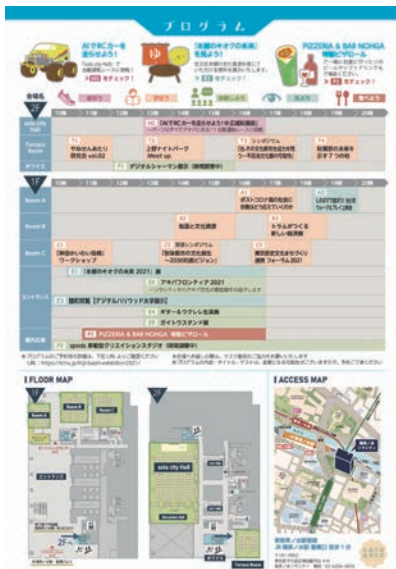
主催：東京文化資源会議

共催：sola city Conference Center

後援：千代田区

協力：デジタルハリウッド大学 / 大学院、お茶ナビゲート、

Akiba.TV 株式会社



### ■企画内容

当日は、午前 10 時から 21 時まで、多種多様な企画展示やセミナー、シンポジウムなどが開催されています。ご興味や関心のあるものは、自由に入出入りしてご参加ください。一部、Zoom 等を活用したオンラインのみの開催があります。

#### 基調シンポジウム「旨味都市の文化創生～2030 列島ビジョン」

場所：Room C / 時間：13 時 30 分～15 時 30 分

東京文化資源会議では、その設立と同時に発表した『東京文化資源区構想報告書』（2015 年 5 月）の提言内容に沿って各種プロジェクトやその関連イベント活動を約 6 年間にわたって展開してきました。その成果を踏まえて、さらに今後の発展を期すべく、当初想定した東京都心 3 区（千代田区・文京区・台東区）の枠を超えた全国的な文化資源活用とそのための制度改革を視野に入れた構想『旨味都市の文化創生 — 列島ビジョン 2030』を昨年（2020 年 11 月）策定しました。本シンポジウムでは、これまでの東京文化資源会議活動の成果を踏まえつつ、同構想に盛り込まれた「旨味都市」の内実とその可能性を議論し、ポストコロナ期の日本の文化資源活用の展望を開いていく出発点にしたいと考えます。

#### 「神田かいわい指標」ワークショップ

場所：Room C / 時間：10 時～12 時

東京文化資源会議・神田まちづくり懇談会では、2021 年 5 月 5 日開催のひじりばし博覧会 2021 にて「神田かいわい指標」ワー

クショップを昨年度に引き続き実施します。

神田エリアでは昨今の都心回帰の流れで大小様々な開発圧力が高まる中で地域にとって公共性や納得性の高い都市開発やまちづくりが求められています。千代田区は警察通り沿道整備協議会を立ち上げ、共通する一つのイメージの神田ではなく、小さな魅力的で个性的なまちまち、かいわいを捉える必要性を認識してきました。一方で、開発事業者はそれぞれ再開発協議組合を中心に主に町会と議論を重ね合意を伴う開発を進めています。

このような背景のもと、東京文化資源会議・神田まちづくり懇談会では、大学関係者が中心となって地元の納得感のある開発を進めてもらうため、かいわいの特徴を捉える指標の開発をおこなってきました。

今回の「神田かいわい指標」ワークショップでは、神田まちづくり懇談会で検討してきた「神田かいわい指標」について、①指標の考え方、②指標の使い方、③実際の指標による地区の評価、を提示するとともに、神田警察通り沿道整備協議会による神田地域のまちづくりビジョンとかいわい指標の連携の方法を議論していきます。

#### やねせんあたり研究会 vol.02

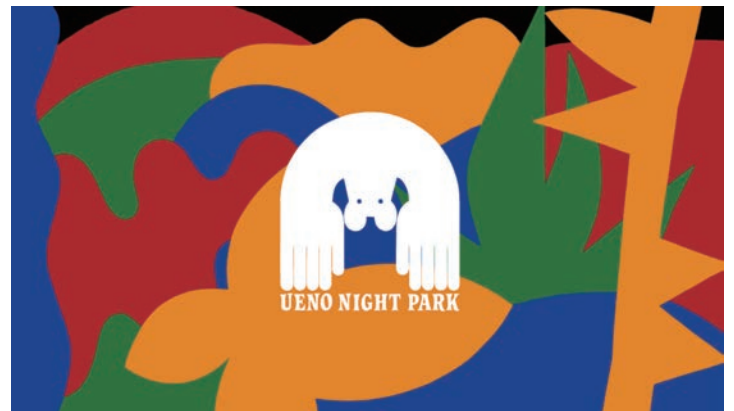
場所：Terrace Room / 時間：10 時 30 分～12 時

「やねせんあたり」を演習や卒論や修論のテーマに取り組み大学・大学院生、まちづくりや建物保全・活用など実践的な立場から研究・プロジェクトに関わる人が、それぞれの活動を発見し、地域の活動としての展開につなげるための場づくりの一貫として、2020 年度の活動の発表会を行います。

#### 上野ナイトパーク Meet Up

場所：Terrace Room / 時間：13 時～15 時

パンデミックに翻弄され実現しなかった企画、それでも獲得できた成果を踏まえて、ゲストと共にモビリティ、都市、メディアアートなどの視点から上野ナイトパークの可能性を拡張的に描き出す 2 部構成のセッション。



#### 「しのばず遊ぼう！池と町ウォーク&プレイ」上映会

場所：Room A / 時間：18 時半～20 時

スポーツ文化資源チームは、本年 3 月に、上野仲町通り商店街と連携して、「ウォーク&プレイ」という企画を実施しました。具体的には、上野池の端の文化資源（とくにスポーツ文化資源）を生かして、誰もが一緒に楽しめる遊び方を動画で提案するというものです。本企画は、「ウォーク&プレイ」の動画を上映し、わたしたちのチームが池の端のスポーツ文化資源をいかに調べて、いかに動画にしていき、それをどう実践へとつなげていくかを検討するものです。以下、簡単に動画の紹介をします。

「ウォーク編」は、上野の山、不忍池の畔、仲町を巡り、各スポットの歴史や文化資源について語りながら、ゴールを目指します。起伏に富んだ上野の地形を、スピードにとらわれず、自分のペースでゆっくり身体を動かしながら、上野の山と池之端のポイントを辿ります。

「プレイ編」は、上野仲町通り商店街の魅力ある店舗や、全長270mの直線的な通りを生かして、10分時間当てウォーク、まちなか視力検査、お手玉ポッチャ、まちなか玉入れなど、誰もが一緒に楽しめる遊びを工夫してみました。

## 地面と文化資源

場所：Room C / 時間：14 時～ 16 時

—漫然と歩いていただけ「地図を見てはじめてわかる」文化資源があり、地図を見て「歩いてみないとわからない」文化資源がある—

我々の社会に蓄積されてきた地図は、文化資源に関する情報を伝え、残す重要なツールです。その一方で、地図そのものもまた、重要な文化資源でもあります。古地図を使った街歩き、文化資源の散策は全国各地で行われています。さらに様々な技術革新によって、地図はその可能性を広げてきました。スマートフォンの地図を使って現在地や経路を検索して移動することはもはや当たり前の行為となっています。また、デジタルな地図をバーチャルな空間としてとらえ直し、その上を旅するオンラインツアーの取り組みも多くの人々を惹きつけています。

本シンポジウムでは、文化資源会議が進める「地図ファブ」の取り組みと、最先端の技術と地図を組み合わせたサービスを展開している皆さんの事例を共有していきます。地図を軸とした歴史の上に新たな動きが生まれ、新旧様々な文化資源の発見をもたらし、地図そのものが新たな文化資源となっていく可能性を議論してまいります。



## シンポジウム「池、その文化都市生成力を問う—不忍池文化圏の可能性」

場所：Terrace Room / 時間：16 時～ 18 時

名月や池をめぐる夜もすがら 芭蕉—都市の水辺の中でも、穏やかで優しい水面を持ち、その周囲をゆっくりと巡ることができる池は、人々の暮らしと密接に結びついていた。人々は池に導かれて、その周囲を回遊しながら、会話と思索、活動を重ね、拡げ、その地固有の文化を有する界隈を生み出してきた。

東京では、近代化の過程において、少なくない数の池が埋め立てられ、姿を消していったものの、幸いなことに、現在でも上野の不忍池や大名庭園由来の池、武蔵野の水源池などが健在である。これらの池、そして池が育ててきた界隈が、文化都市・東京の一

つの側面をかたちづけている。

本パネルディスカッションでは、『不忍池ものがたり』の著者で、不忍池の歴史と文化に関する第一人者である鈴木健一先生に基調講演をいただいた後、上野の不忍池から池之端、さらにその南へひろがる界隈におけるまちづくりの課題と可能性についての理解を深めることを念頭に置きつつ、福岡や北京などの、他の先進的な池文化都市、界隈の事例報告をもとに、池の文化都市形成力について問いたいと考えている。

## ポストコロナ禍の社会に宗教はどう応えていくのか

場所：Room A

時間：16 時～ 18 時

新型コロナウイルスの世界的な流行は、社会のあらゆる側面に影響を及ぼし、世間には先の見えない不安が広がっています。一方で、その流行はこれまで見えてこなかった社会の様々な問題を浮かび上がらせ、価値観を問い直すきっかけともなりました。本ラウンドテーブルでは、宗教家と研究者が宗教、宗派、学問の垣根を越えて集まり、新型コロナウイルスの流行が終息した後（ポストコロナ禍）の日本で宗教が果たす役割と可能性、社会と宗教の関係について共に考えます。信仰、哲学、宗教学、精神医学、臨床心理学、民俗学、社会学など、参加者それぞれの立場・専門分野の多角的な視点から、ポストコロナ禍の社会を支える宗教文化のあり方を探ります。



## 東京歴史文化まちづくり連携 フォーラム 2021

場所：Room C

時間：16 時 30 分～ 18 時 30 分

## トラムがつくる新しい経済圏

場所：Room B

時間：17 時～ 19 時

## 秋葉原の未来を示す7つの柱

場所：Terrace Room

時間：18 時半～ 20 時

東京の中でもひととき大きな個性を放つ街である秋葉原。この街は、時代の変化を反映し、また時には変化を先取りしながら今日まで発展してきました。そして現在、秋葉原は何度目かの大きな変化を迎えようとしています。秋葉原の未来はどのようなものになっていくのでしょうか。その兆しであり、これからの秋葉原を支える「柱」でもあると考えられる7つのテーマに注目し、各分野の有識者とともに議論します。

### 『AIでRCカーを走らせよう！@広域秋葉原』

～パーツはすべてアキバにある！！ 自動運転レースに挑戦

場所：sola city Hall

時間：13時～17時

人工知能で市販のラジコンカーを走らせるレクチャーとエキシビションレースを開催します。人工知能？と聞くと難しそうに聞こえますが、体験するだけならコンピューターの経験のある人なら中学生から大人まで誰でもチャレンジ可能。やり方は、AIカーのセッティングができたらずは人間が操作してコースを周回、AIがコース周辺の風景と運転操作を学習します。それをもとにAIカーが人間が操作するように自動走行します。しくみは、市販のRCカーに電子工作用マイコンのRaspberry PiやJetson nanoを搭載、走行データをもとに学習モデルを生成、AIカーにインストールしたグーグルの人工知能TensorFlowで自動運転します。

将来的に、身の回りにあふれることになる人工知能がどんなものか？手で触れるようにして体験できます。当日は、AIカーの代表的なモデルである「Donkey Car」、「JetRacer」、フェイスブックページ「AIでRCカーを走らせよう！」のメンバーが作った自作AIカーのエキシビションレースを開催。「子どもとv.s.AI/未来の仕事はAIにとられてしまうのか？」と題して人間とAIカーのレースも予定しています。

### 『本郷のキオクの未来 2021』展

場所：エントランス

時間：13時～17時（予定）

文京区本郷には、下宿屋の流れを汲んだ旅館街、そして数多くの銭湯、学生街を形成していた様々な商店など、いろんな形の都市の「文化」が培われてきました。

しかし、現在の本郷の街を見ても、そうした文化資源と呼べるものがどんどん姿を消しています。そんな中、2015年の銭湯「菊水湯」の営業終了を契機として、文京建築会コース・株式会社松下産業・東京大学・跡見学園女子大学・文京区・地域住民などの本郷にゆかりがあるメンバーが集まり、「本郷のキオクの未来」プロジェクトが立ち上がりました。

現在も、東京文化資源会議のご協力のもと、本郷の魅力発信につながる文化資源の保存・記録・活用を目指し、活動をしています。この度の「ひじりばし博覧会」では、私たち「本郷のキオクの未来」プロジェクトの活動の成果とともに、文京区本郷の文化資源を感じていただける資料を展示いたします。



### アキバフロンティア 2021——ソラシティからアキバ文化の最前線をお届けします

場所：エントランス

時間：13時～17時

アキバ文化の最前線を、秋葉原エリアのフロンティアである御茶ノ水から発信します。また広域秋葉原作戦会議が考える秋葉原の将来像や変化の兆しについても展示します。

### 麹町照覧（デジタルハリウッド大学展示）

場所：エントランス

時間：13時～17時（予定）

### ガイトウスタンド展

場所：エントランス

時間：13時～17時（予定）

昨年10月、不忍池のほとりの歓楽街・仲町通りに誕生した「飲める街灯」ことガイトウスタンド。今回はそのモックアップに加え、現在検討中の様々なデザインバリエーションのガイトウスタンドを展示予定です。



### spods 移動型クリエイションスタジオ

場所：屋外広場

時間：13時～17時（予定）

「移動型クリエイションスタジオ」プロジェクト「spods」による、モビリティとエンターテインメントの融合の可能性をもとに、「移動型の新体験」を実践します。

### PIZZERIA & BAR NOHGA 特製ピザロール

場所：屋外広場

時間：13時～17時（予定）

PIZZERIA & BAR NOHGAの薪窯で焼いた特製ピザロール（マルゲリータ等）。一緒に初夏にぴったりのビールやソフトドリンクもご堪能ください。

## シンポジウム「ポスト五輪・ポストコロナの東京ビジョンー旨味都市の文化創生」

東京文化資源会議では、設立と同時に発表した『東京文化資源区構想報告書』（2015年5月）の提言内容に沿って、これまで各種プロジェクトや関連イベント活動を約6年間にわたって展開してきました。その成果を踏まえて、さらに今後の発展を期すべく、当初想定した東京都心3区（千代田区・文京区・台東区）の枠を超えた全国的な文化資源活用とそのための制度改革を視野に入れた構想『旨味都市の文化創生ー列島ビジョン2030』を2020年11月に策定いたしました。

そこで、これまでの東京文化資源会議の活動成果を踏まえつつ、同構想に盛り込まれた「旨味都市」の内実とその可能性を議論し、ポストコロナ期の日本の文化資源活用の展望を開いていく出発点にしたいため、2021年11月26日に東京文化資源会議主催シンポジウム「ポスト五輪・ポストコロナの東京ビジョンー旨味都市の文化創生」を開催いたします。

基調講演に吉見俊哉東京文化資源会議幹事長、高野之夫豊島区長によるビデオメッセージ後のパネルディスカッションでは、伊藤滋東京文化資源会議会長、吉見俊哉東京文化資源会議幹事長、グランドレベル代表 田中元子氏、カルチャースタディーズ研究所代表 三浦展氏らをゲストに、ポストコロナ社会における東京ビジョンについて議論が交わされました。

「文化資源」という考え方は、東京のみならず地方都市においても重要であるという議論のもと、コロナ禍を経て、改めて日本社会における文化の重要性、それらを維持・利活用していくための体制づくりや価値観のシフトなどについて意見が交わされました。さらに、東京文化資源会議が、東京のみならず、日本全国の文化

資源を発掘していくためのネットワークを構築すべきという意見が飛び交うなど、全国的な文化資源活用と今後の展開について活発な意見交換を通じて、東京文化資源会議の今後の方向性について考える機会となりました。

### ■シンポジウム概要

日時：2021年11月26日（金）16時30分～18時30分  
場所：御茶ノ水ソラシティカンファランスセンター ルームC  
主催：東京文化資源会議  
聴講：無料、先着100名

### ■構成

- (1) 主催者挨拶 伊藤滋 東京文化資源会議会長
- (2) 基調報告「ポスト五輪・ポストコロナの東京をどうするか」  
吉見俊哉 東京文化資源会議幹事長
- (3) パネルディスカッション  
＜パネリスト＞（50音順、敬称略）  
伊藤滋（東京文化資源会議会長・東京大学名誉教授）  
高野之夫（東京都豊島区長）  
田中元子（㈱グランドレベル代表）  
三浦展（カルチャースタディーズ研究所代表）  
吉見俊哉（東京大学教授、東京文化資源会議幹事長）：司会
- (4) 質疑応答



## 東京文化資源会議 2022 年度事業計画（案）

### 1. 「シン・東京ビジョン」の作成・公表と来年度以降の活動方針の提示

「東京文化資源区構想」策定から7年が立ち、東京オリンピック文化プログラムの一環と位置づけた同構想も、次のステージへの発展が必要となっている。そこで、これまでの当会議関連プロジェクトの成果を踏まえつつ、オリンピック後の新しい東京の在り方を提示するための「シン・東京ビジョン（仮称）」を策定し、公表する。検討体制としては、上野の全体プランを検討するために設置した上野連携構想推進委員会（委員長：吉見幹事長）が中心となって素案を作成する。関連するプロジェクトは以下のとおり。

また、当初想定した8年間の設置期限が2022年度で終了するにあたり、次年度以降の運営体制・活動方針についても検討する。

#### ① 上野ナイトパーク構想（構想会議座長：青柳正規多摩美術大学理事長）

2020年7月に設立した上野ナイトパークコンソーシアム（UNPC）を中心に、上野公園ミュージアム等関連施設及び周辺施設との連携事業を順次実施する。

#### ② 上野スクエア構想（PT 座長：中島直人東京大学准教授）

地元商店会等関係者と連携した活動を順次実施する。

#### ③ 湯島神田上野社寺会堂研究会（座長：吉見俊哉東京大学教授）

地図ファブ PT と連携してハード面整備のための中長期ビジョンを策定する。一昨年創始した共同イベント「崖東夜話」を定例化し、第3夜を本年10月頃実施する。社寺会堂塾第2期を開始する。

#### ④ トーキョートラムタウン構想（PT 座長：中島伸東京都市大学准教授）

2020年7月にまとめた構想をもとに、社会実験実施をめざして関係者との協議を進める。

#### ⑤ 広域秋葉原作戦会議

秋葉原の新しいまちづくりを基幹コンセプトとして、「アーツ&アキバ運動」を展開していく。

### 2. まちづくりに関する提案

「神田かわい指標」の作成・公表に向けて集中的に取り組んでいる神田まちづくり懇談会を中心に、以下の各プロジェクトチームにおける活動を推進するとともに、必要な連携を図り、まちづくり制度改革のための提案を行っていく。

#### ① 神田まちづくり懇談会（座長：小林正美明治大学教授）

#### ② リノベーションまちづくり制度研究会（座長：田村誠邦明治大学特任教授）

#### ③ 広域秋葉原作戦会議（座長：庄司昌彦武蔵大学教授）

#### ④ 本郷のキオクの未来（座長：栗生はるか文京建築会ユース代表）

#### ⑤ やねせんあたり研究所（主宰：片桐由希子金沢工業大学講師）

#### ⑥ 3区文化資源地図ファブ（座長：真鍋陸太郎東京大学助教）

### 3. 各プロジェクトチーム等の運営と関連イベント（オンラインを含む）の開催

#### ① スポーツ文化資源 P（座長：新雅史流通科学大学講師）

スポーツの文化資源化を図るため、「スポーツを遊べる」場を当地域内で増やしていく。

#### ② 文化資源プロデュース塾（塾頭：庄司昌彦武蔵大学教授）

広域秋葉原作戦会議の活動に基づいて第2期のテーマを設定し、塾生を募集する。

### 4. 広報普及活動

(1) 『T-Cha』の発行（年4回）

(2) 「ひじりばし博覧会 2022」の開催（5月）

(3) 社寺会堂共同イベント「崖東夜話・第3話」の実施（10月）

### 5. 東京文化資源区文化プログラム推進協議会の運営

### 6. その他当会議の目標を達成するために必要な事業

# 東京文化資源会議 2022 年度収支計画（案）

## ○ 収入

前年度繰越金	510 万円
本会員会費	3,000 円× 70（団体・個人） = 21 万円
賛助会員会費（内訳：50 万円× 9 社+ 30 万円× 10 団体）	750 万円

計、1,281 万円

## ○ 支出

<u>事務局運営費</u>	551 万円
事務所賃料（光熱水道費を含む）	3 万円× 12 か月 = 36 万円
備品等購入費	5 万円
スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）	350 万円
事務作業委託費	80 万円
交通費、電話料金、消耗品費等運営経費	40 万円
総会開催経費（年報編集刊行費等）	40 万円
<u>イベント開催費</u>	340 万円
ひじりばし博覧会 2022 運営経費	150 万円
崖東夜話実施経費	120 万円
その他シンポジウム等 3 回開催の講師謝金、運営経費、会場費等	70 万円
<u>プロジェクトチーム等運営費</u>	80 万円
プロジェクトチーム等運営費	10 万円× 6 グループ = 60 万円
会場費	20 万円
<u>広報普及費</u>	285 万円
既存出版物増刷費	20 万円
パンフレット・チラシ等編集・作成費	50 万円
ニュースレター制作費（4 号分）	80 万円
ホームページ運用費	10 万円
広報業務支援委託（ニュースレター編集等）	55 万円
広報媒体費（PR タイムズ他）	70 万円
<u>その他諸経費（会計監査謝金等）</u>	10 万円
<u>予備費</u>	15 万円

計、1,281 万円

# 東京オリンピック文化プログラム推進に関わる 4 者協議会規約

(平成 28 年 5 月 9 日確定)

(名称)

第 1 条 本協議会は、東京文化資源区文化プログラム推進協議会と称する。

(目的)

第 2 条 本協議会は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの実施に合わせて、東京都千代田区、文京区及び台東区内に存在する豊富で多様な文化資源を、当該各区のみならず、当該各区の住民及び国内外からの来訪者に対して連携して活用することにより、各区域内における文化振興、地域活性化、教育普及、観光促進等を図るため、その具体的な施策について協議及び推進することを目的とする。

(協議会の構成)

第 3 条 本協議会は、前条の目的に賛同する次の各号の掲げる 4 者（以下単に「4 者」という。）をもって構成する。

- (1) 千代田区
- (2) 文京区
- (3) 台東区
- (4) 東京文化資源会議

(運営方針)

第 4 条 本協議会の運営方針は、4 者の協議によって決定する。

(事務所)

第 5 条 本協議会は、主たる事務所を東京都千代田区神田錦町二丁目 1 番地に置く。

(会議)

第 6 条 本協議会の会議は、4 者の合意のもと、必要と認めた場合に開催する。

2 会議の議事は、4 者の協議をもって決する。

(事業等に係る経費)

第 7 条 4 者の協議に基づく文化プログラム個別プロジェクトの企画及び実施に係る経費の支出については、4 者で別途協議する。

(規約の改定)

第 8 条 本協議規約の改定は、4 者の合意をもって行う。

(事務局)

第 9 条 本協議会の事務局は東京文化資源会議内に置く。

(その他)

第 10 条 本協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規約は、平成 28 年 6 月 1 日より施行する。



## 東京文化資源会議 役員名簿

2022年3月31日現在

会長	伊藤滋（東京大学名誉教授）	
幹事長	吉見俊哉（東京大学教授）	
顧問	青木保（前国立新美術館館長）	青柳正規（多摩美術大学理事長）
	相賀昌宏（小学館社長）	小倉純二（日本サッカー協会最高顧問）
	金澤正剛（国際基督教大学名誉教授）	高階秀爾（大原美術館館長）
	御厨貴（東京大学名誉教授）	
幹事	新雅史（流通科学大学講師）	太下義之（同志社大学教授）
	小野道生（㈱都市計画設計研究所室長）	宇野求（東京理科大学嘱託教授）
	片桐由希子（金沢工業大学講師）	栗原祐司（京都国立博物館副館長）
	栗生はるか（文京建築会ユース代表）	小泉秀樹（東京大学教授）
	小林正美（明治大学教授）：副幹事長	沢辺均（ポット出版社長）
	椎原晶子（NPO たいとう歴史都市研究会理事長）	島裕（公益財団法人中曽根康弘世界平和研究所主任研究員）
	庄司昌彦（武蔵大学教授）	数藤雅彦（弁護士）
	高野明彦（国立情報学研究所教授）	玉置康紀（㈱KADOKAWA エグゼクティブプロデューサー）
	田村誠邦（㈱アークブレイン代表取締役・明治大学特任教授）	
	中島伸（東京都市大学准教授）	中島直人（東京大学准教授） 中村政人（東京藝術大学教授）
	中村雄祐（東京大学教授）	濱口博行（東アジアサッカー連盟 CFO・広島経済大学教授）
	福島幸宏（慶応義塾大学准教授）	三船康道（NPO 歴史的建造物とまちづくりの会代表）
	山本玲子（特定非営利活動法人全国町並み保存連盟事務局長）	
	吉本光宏（㈱ニッセイ基礎研究所研究理事）	
監事	北岡タマ子（お茶の水女子大学リサーチ・アドミニストレーター）	
事務局長	柳与志夫（東京大学特任教授）	

## 東京文化資源会議 賛助会員（一般・特別・名誉）リスト

(50音順) / 2022年3月31日現在

## &lt;一般賛助会員&gt;

1. 朝日信用金庫
2. NTT都市開発(株)
3. 講談社
4. (株)JTB
5. 小学館
6. (株)ゼンリン
7. (株)丹青社
8. 凸版印刷(株)
9. (株)日立製作所
10. (株)松下産業
11. (株)ムラヤマ
12. (株)山下PMC
13. YKK AP (株)

## &lt;特別賛助会員&gt;

1. 住友商事(株)
2. (株)大丸松坂屋百貨店
3. (株)竹中工務店
4. (株)電通
5. 日鉄興和不動産(株)
6. 野村不動産(株)
7. (株)博報堂
8. 三井不動産(株)
9. 三菱地所(株)
10. 安田不動産(株)

## &lt;名誉賛助会員&gt;

(株)池之端藤井



**東京文化資源会議 2022 年度 年報**

発行日 2022 年 5 月 5 日

発行者 東京文化資源会議 (編集: 真鍋陸太郎)

〒110-0005 台東区上野 2-11-1 藤井ビル 3 階

TEL: 03-5244-5450 WEB: <https://tcha.jp/>



# ひじりばし博覧会 2022 プログラム



## 「メタバース」で遊ぼう!

最新技術を駆使したメタバース空間を体感いただけます。

» **H1** をチェック!



## 「本郷のキオクの未来」を見よう!

文京区本郷の文化資源を感じていただける資料を展示いたします。

» **E2** をチェック!



## ノーガホテル 特製ピザロール・カヌレ 庭のホテル特製お弁当

ご一緒に初夏にぴったりのソフトドリンクもご堪能ください。

» **P1** をチェック!

会場名

2F



遊ぼう



学ぼう



見よう



食べよう

	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	
sola city Hall			<b>H1</b> 最新メタバースで遊ぶ (提供: デジタルハリウッド大学)									
Terrace Room	<b>T1</b> やねせんあたり 研究会 vol. 3			<b>T2</b> 社教会堂シンポジウム 「学びとは何か - 我々は 何をどのように学んできた か、そしてこれから? (仮題)」			<b>T3</b> アーツで秋葉原の新たな可能性を提示する ～アーツ&アキバ運動の構想を語る～					

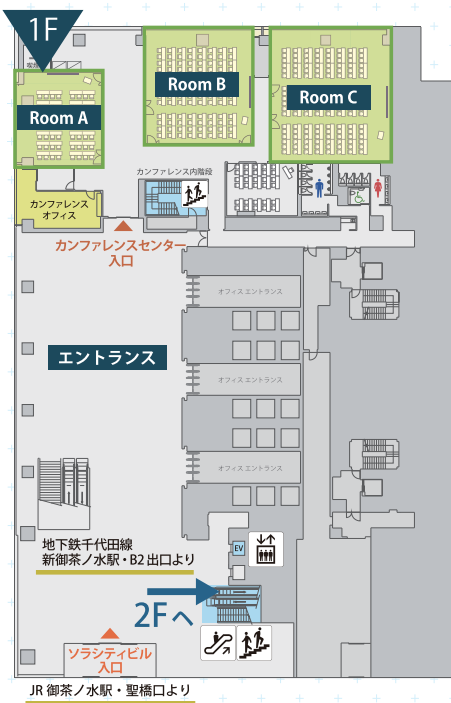
1F

	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時
Room A	<b>A1</b> ラジオ体操から ひろがる 美味しい朝ごはん			<b>A2</b> 歴史文化まちづくりと 都市計画: 谷中地区か ら考える			<b>A3</b> 地図ファブ・社教会堂 ジョイント企画: 「地図ファ ブが未来の地図を描くま ちは生きている2045」				
Room B	<b>B1</b> 公開アイデア会議: “動く公民館”を考える			<b>B2</b> 『本郷のキオクの未来 2022』シンポジウム			<b>B3</b> コロナ禍後の上野公園 の課題と可能性～利用 調査で見えてきたもの				
Room C	コーヒーの 無料サービスもご提供。 ※なくなり次第終了			<b>C2</b> 神田かわい指標 ワークショップ					<b>C3</b> 未来の東京を(東)に再生する :新しい地域デザイン活動事例 から見えてくるもの		
エントランス	<b>E1</b> デジタルハリウッド大学展示: 麴町照覧他						<b>E2</b> 『本郷のキオクの未来 2022』展				
屋外広場			<b>P1</b> 『ノーガホテル特製ピザロールとカヌレ』 『庭のホテル特製お弁当』								

※プログラムのご予約等の詳細は、下記 URL よりご確認ください  
URL : <https://tcha.jp/hijiribashi-exhibition2022/>

※会場へお越しの際は、マスク着用のご協力をお願いいたします  
※プログラムの内容・タイトル・ゲストは、変更になる可能性がございますので、予めご了承ください

## FLOOR MAP



## ACCESS MAP



新御茶ノ水駅直結  
JR 御茶ノ水駅 聖橋口 徒歩 1分

〒101-0062  
東京都千代田区神田駿河台 4-6  
御茶ノ水ソラシティ 電話: 03-6206-4855

